獨立亭成功著

男女東京に於て自活する法

附 田舍生活副業法

東京 博士書院

267
256

特46
569

獨立亭成功著

男女東京にて自活する法

附 田舍生活副業法

東京 博士書院

明治
44. 9. 21
購求

序文

地方に在る青年男女中少し利發の者は皆東京に出でて學問を修め立派の人とならんとす、然し學資を充分父兄より與へらるる者は自活の心配なしと雖も、父兄が貧困にして學資を給與すること能はざる者は自ら獨立して自活し而して後に學問なり技藝なりを修めざるべからず、又貯金が目的ならば自活して尙金を遺し貯蓄せざるべからず、然り此目的を以て上京する青年男女夥だしきも、眞に成功せる者は萬人に一人位しかなく、其他は失敗に失敗を重ねて着て出た衣服迄脫がされて裸となりて歸鄉し、近隣の笑を招き信用を失するを常とす、只に然のみならず本人は遊ぶ惡癖が附いて身體は勞働に堪へず、實に困つた厄介人となるもの尠なからず、之れ抑も何故なるか、東京にて自活せ

男女東京に自活する法

獨立亭成功著

緒言

舊幕時代の門閥主義は平等の風に吹き倒されて、四民同權、世は實力の舞臺となり穢多非人の子弟と雖も才學次第高位高官に上るを得金次第如何なることも出來る明治　聖代の今日に於て、有爲の青年男女何ぞ祖先の業に營々として犂鋤を伴にして空しく山間に朽ち果てんや、況して敎育の道大に開け、師は足り書は溢れ、青年子弟が實力研磨の便完備するに於ておや、天下の青年男女宜しく手に唾して奮起又蹶起すべきなり。

されば、東都は文化の中樞、四方より節を負ふて此の地に來り學ぶもの年々增加し數拾萬の多きに上れり、此等學生の多くは大抵資產家の子弟にて父兄より學資を仰ぎ生活上何等の痛痒を感ぜずして學成り業を遂げしものあるも稀には一文なん。とするには如何なる方法によるべきかをよく知らざるにあり、東京にさへ行けば豪ひ人になれるものと誤解し、輕忽に上京する弊なり、よつて余は其れ等の人々の爲めに東京に於て自活する方法を講ずると共に無謀輕忽の上京を戒めんとして此書を著はせり。

又地方在住の子弟姉妹も父兄の脛をのみ噬らず、自分で働き自分で金を得て其れを使ふと云ふ精神を養成し、其れを實行せしめんとして地方に在住しつゝ餘暇に小使錢を取る方法を記述せり、若し本書によりて著者の意を杓み實踐せられなば、獨り其人の幸福のみならず其家の幸福大にしては國家の幸福ならんと一言を記して序文とす。

明治四十四年八月末日　著者識す

しにて東京に出で苦學して博士となりしものあり勉勵して大金持となりしものもあり、亦往々資なくして衣食に窮し勉學の時間に乏しき苦學生なきにあらず苦學生中或は自活の道無くして中途に方向を轉ずるものあり或は困苦の餘り惡心を起して墮落するものあり、或は學を廢めて鄉に歸るものあり、思ふに此等苦學生が決然鄉關を出づるや假ひ學資なしと雖も吾に五尺の身體あり何ぞ衣食に窮せん見よ五年後の吾をと、雄心勃々成業を期して東都に來れるものなり。然し其の志未だ幼稚にして百折不撓千座不屈の一大決心なくして僅かの艱難に忽ち雄心衰へて笑を鄉に招き、又は邪念を起して名を汚すに至るなり、斯の如き薄志弱行の徒こそ大に戒むべきなり。古人曰く精神一到何事か成らざると、又曰く「志ある事終に成る」、天は自ら助くるものを助く」「意思ある所其所に方法あり」と、眞に然り。見よナポレオンを、見よフランクリンを、見よスタンレーを、否吾人は遠く例を泰西に求め舊く既往に逆るを要せず、現に我國に於て博士と稱せられ政治家と呼はれ金滿家を以て尊敬され實業家を以て一世に雄飛しつゝある者の多くは皆是れ過去に於て一文なしにて東京に出で成功せし人々なり、事實は明かに吾人に證明す、誰か謂ふ

一文なしにては到底成業する能はずと況んや單に自活する丈に於てをやなり。

一歩を進めて吾人は世の成功の多くは元一文なしの貧者なりし事を謂ふ、蓋し金錢餘りあつて衣食に何等の苦痛を覺えざる資產家の子弟は、一面に於て獨立獨行の精神を失ひ、他面に於ては金錢の尊きを知らず、有るに委せて酒樓に手を打ち遊廓に現をぬき、自己の事業は毫も省みずして遊治を事とするに至るもの多しと雖も、貧困者の子弟は自ら生活の道を立てざる可らざるが故に元より遊ぶの時間もなく餘財もなく、從て時間と金錢の尊きを知り、孜々營々眞一文字に目的に向て突進するの傾きあり、之れ貧困者の子弟に成功多くして金錢豐富なる者の子弟に成功少き所以なり。

勿論金錢なくして業を遂げんとするは困難中の困難なり、故に成功する者ありと雖も往々困苦辛酸に堪へずして中途に坐折するもの又多きは何故ぞや、志の堅固ならざる其一大原因をなすと雖も無錢にて成功する祕法を知らざるに基くものなり。

余は初一文なしにて東京に出で五年の長日月を或は新聞賣となり或は車夫となな

り、或は食客となり、或は催眠術師となりて、經過し、今は數萬の財産を貯へ、人より先生と呼ばるゝに至れり、故に世の貧者の子弟に對して一層の同情を有せるものなり、よりて自己の實驗に徴して茲に東京にて自活する祕法を說き以て參考に供せんとす。若し夫れ本書を取て一讀せん乎、暗中に光を得、熱中に活水を得るの心地あるべし。

嗚呼門閥主義は倒れて四民平等穢多非人の子と雖も高位高官に上るを得金さへあれば如何なることでも出來る今日、天下有爲の青年男女敢て金錢なきを憂ふる勿れ、金錢なきこそ大幸なり若し金錢あらば世の富豪の子女の如く淫奔遊惰に流れ徒に造糞器たるに止るならん、殊に無錢にして立派に自活し目的の地に達する方法數多あればなり、奮起せよ蹶起せよ青年男女。

第一章　東京にて自活せんとする者の注意

然れども錢無くして東京に出で他日の成功を期するには金錢に不足なき者と異

り人の知らざる困難艱苦を嘗めざる可らず、從て其精神に於て其行爲に於て大に注意すべきものあり、左に其主要なるものを列擧せん

第一節　目的を確く定むること

目的を立てゝ東都に出づべきことは敢て錢なき貧生のみにあらずして金錢に餘りある者と雖も然り、然れども無錢にて自活せんとする者は特に目的を確く決定するにあらざれば往々豫期せざる結果を招き一生涯を過まることあるべし、何となれば金錢あるものは衣食の慮なく時間の不足なき故、假ひ上京して目的を定むるも自由にして、又中途目的を變更するも着々として其目的を遂行することを得ると雖、無錢者は常に衣食に追はれて時間もなく金錢も足らざる境遇に立てるを以て、遂に目的を變更すること多く、昨日は東今日は西と浮草の流るゝ如く一定せざるもの往々あり、中には目的を立つる能はざるものさへあり、金錢なく時間なき貧生にして此くの如く目的動搖し居らば何れの日か成功するを得ん、遂に失敗して鄉に歸るか若くば方針を變じて卑しき生涯を送るに至るべし、之れ余が特に無

錢者に目的を確立する事を勸むる所以なり。

余の知れるものに土肥某なるあり、某は年齢十八歳の時故郷を去つて上京せり元より金錢ある身にあらざれば果然衣食に窮し或は新聞賣子となり車夫となり幾多の辛苦に攻められて遂には學に志すの意思も失せて成るべく暮らしよき所にありつかんと種々様々の事をなす中年齢は次第に長じて今は三十歳尚ほ車の扼棒に日を暮しつゝあり、此男常に曰く「余は輕卒なりしため遂ひに終生を過りたり實際余の上京せしは一定の目的なく只何になりと甘ひとにありつかんと云ふ如き漠然たるものなりし故なり」と或はそれ然らんか。

第二節　忍耐力あること

東京にて自活せんとする者に忍耐を要するは單に無資者のみにあらず金錢に不足なきものと雖も然り。然りと雖も無資者は有錢者より層一層の忍耐あらざる可らず、然らば如何なる事を忍耐せざる可らざる乎殊に爰には學問の素要なき高等小學卒業後の學力しかなき青年男女のために自活の道を說かんとするに於てを

や非常の忍耐あるを要す。今左に其主なるものを擧げん。

(一)、勞苦の忍耐　無資にて自活せんとするは仲々困難にして到底樂な職業はあらざるなり、殊に東京と云ふ日本の都に於て自活せんとするに於ては或は車夫ともならざる可らず、或は牛乳配達ともならざる可らず、其他の勞働をなさざる可らず、故に此等勞苦を忍耐するの決心なくんば到底無錢自活は出來ざるなり。勿論何れの職業と雖も勞苦を感ずるは七日か十日の間のみ、習ふよりは慣れろと言へる諺の如く慣れゝば何等の苦勞なきなり、某自活者語つて曰く「僕が車夫を始めて七八日の間と云ふものはソレは〳〵一通りの苦勞では有りませんなんだ、樣子も知れず、脚も固まらず、豆だらけの痛い脚で汗を流し〳〵坂を引上げたり泥の中を走る時つたら、モウ死にたい程辛かつたです、其癖樣子は知ちないときて居るから遠い道を馬鹿に廉く走つたりして損ばかりした、だから五日目の夕刻僕は斷然車夫を止めやうとしましたが朋輩がモウ少しの我慢だから辛棒しろと勸めたので又辛棒して車を引きましたが、ナニ十日目頃からは平氣で前の苦勞は何處へやらと謂つた樣な形で、樣子は解つて來る錢はとれる、貯金が段

々出來るのです」と。

(二)衣食の忍耐　衣は寒を防げば足り食は飢を凌けば足るとの決心あるにあらざれば自活は出來ざるなり。無錢者を只食はして置くものなく自ら働きて自ら衣食せざる可らざるを以て、學もなき經驗もなき青年は澤山の錢を得て下宿屋生活をなすを得ず、壹圓五十錢か二圓の貸間を借りて自炊をなさゞる可らず、其自炊も牛肉や魚類に舌鼓を打つを得ずして香物か鹽の副食に甘ぜざるべからず尙ほ偶には燒芋を以て飢を凌ぐ位の決心なかる可らず。衣類とても然り、上等の洋服帽靴新らしき着物羽織等は到底望み得べくもなく、垢染たる着物破れたる袴を以て滿足せざる可らず、斯かる服裝にては笑はるゝとか恥かしいとか云へる如き虛榮心ある者は到底自活すること能はざるなり。

(三)誹毀嘲笑の忍耐　無錢者は到底滿足なる生活を營むを得ざるなり常に不十分なる寧ろ滑稽的の生活をなさゞる可らず、故に社會は無錢者に對して同情を寄せ其志を賞贊せざる可らざるに、人は千人一樣ならず涙なきもの道理を知らざる愚者多きを以て、或は無錢者の生活を見て嘲笑するものもあるべく、或はこれ

新聞賣これ車夫などと侮辱するものあるべく、或は錢なきため罵詈せらるゝこともあるべし、而し乍ら此等一切の嘲弄侮辱は馬耳東風に付して苟くも憤怒すべからず、昔淮陰の韓信は辱を忍んで股をくゞりしにあらずや、コロンバスは西班人蒲萄牙人に侮辱を受けしにあらずや、單に韓信コロンバスに限らず古來の偉人傑士と稱せらるゝもの多くは皆世の罵詈嘲笑を享けたる者なり。世の無錢者たるもの亦以て安ずべきかな。

余は嘗て英語を知らざるため友人より大に侮辱されたることあり、余は殘念に堪えず何時かは此侮辱を雪がんものと日夜刻苦英語を獨習し、漸く二年間にして友人以上の學力を有するに至り、一日友人を訪ねて會話を試みしかば友慚愧して赤面したることあり、此くの如く侮辱嘲弄罵詈は人を刺擊し奮勵せしむるの動機となるものなれば、世の無錢者は益々奮勉他日の成功を期して、侮辱者嘲弄者をして自ら慚愧せしむべき也。

(四)服從の忍耐　服從の忍耐は無錢者の總てに必要なるものにあらず。單に食客、事務員等の如く主人持の業務に服從するもののみに其必要を見るなり、一旦主を

とりて主從の關係に立たば何事も主人の命令に服從せざる可らず、或は主人によりては不當の命令も下すべく苛酷の取扱をもなす者あらん、然りと雖も一旦從僕となりたる以上は唯々之に從ふの決心なかる可らず、己れの意に適せざるを以て命令に從はず、不當なりとて理屈を吐かば直ちに解雇せられて路頭に迷ふに至るべし。人は良心あるものなり、如何に酷なる主人と雖も若し從僕にして唯々其命令に從ひ忠實に立働かば必ず憐憫の情を起すに至るべく、遂には學資を給して學校に通ふの時間をも與ふるなり、服從と云ふ事甚だ容易なるが如しと雖、實際に於ては甚だ六ヶ敷き者なり、殊に血氣の青年にとりては一層難き業と謂ふべし、去れど之を忍耐するの力なくんば自活成功なすことは覺束なき也。忍耐すべき事項の主なるものは大抵以上列擧せるものにして、此忍耐力あると否とは成功と失敗との分るゝ標準なり。

第三節　正直にして勤勉なること

或人は錢なき者は到底正直に世を渡るを得ず、狡猾不正直にあらざれば何ぞ自ら

生計を營み金錢を貯ふることを得んやと謂ふも之れ一を知りて二を知らざる暴斷なり、抑も無錢勉學者は既に財あるものにあらざれば金錢ある者に比して一層他人の力を借らざる可らず、他人の力を借らんと欲せば他人の信用を得ざる可らず、他人の信用を得んには正直勤勉ならざる可らず、何ぞ不直正者狡猾者が他人の信用を得る事を得んや。例へば牛乳の小賣配達をなすとするも水を混じたる不正牛乳を配達し若くは配達を怠る等の事あらば、華客は遂に自己の牛乳を斷りて他の配達人に變更するに至り、華客は次第に減じて生計に窮するなるべし。又新聞配達と雖も然り、配達すべき家へ配達せず若くは時間を後れて配達する等の事あらば購讀者は次第に減少して他に變ずるに至るべし。若し又食客學僕等の職業に至つては尚更正直勤勉の必要なることは言を俟たずして明かなり。然るに往々貧困者が目前の小利に迷ひ不正狡猾の手段を弄するあるを見る、之れ自ら失敗の原因を作るものと謂ふべきなり。

第四節　愛情あること

己れ他人につられけば他人又己れにつらく、己れ他人を愛すれば他人又己れを愛す、故に自己が他人に愛されんと欲せば先づ進んで他人を愛せざる可らず。愛情は一般の人に必要なるも殊に無錢に他人の間に立ち自活せんとする者に於て一層の必要を見るなり、何となれば無錢者は他人の力をかり一日働かざれば一日食ふを得ざる哀なる境遇に立てるを以て、一旦病に襲はるゝ如き事あらんか、看護するものもなく、藥を服むの金錢もなく、飢を忍んで獨り病床に苦まざる可らず、此場合に於て賴むは只朋友知人のみ。單に病氣の場合のみならず、從來の職業を失ふて糊口に窮する場合、職業を求めんとして奔走する場合、其他多くの場合に於て朋友知人の力を借らざる可らざる事あるべし、去れば常に朋友のみならず多くの人を愛し親切を施し置かざる可らず、然らざれば自己の窮乏を救ふものなく悲慘の苦みをなさゞる可らざるに至らん。

第五節　慰藉を得ること

錢なくして大志を有し故國を去つて遠く東都に來るや、複雜なる社會の事情は自

己の豫想と違ひて、多くの砌瑳と多くの辛酸とを嘗めざる可らざるに至り遂には失望落膽することもあるべし、茲に於て乎己れを慰め己れを元氣づけて、失望の谷より救ひ落膽の淵より助くるものなくんば、折角の志望も中途に廢せざる可らざるに至らん、故に無錢者は殊に慰藉を有すること肝要なり、慰藉は如何にして之を求むべきか今左に其方法の主なるものを擧げん。

(一)親友の慰藉。　平常親友を作るは畢竟斯る時に於て、互に相慰め相助けんが爲めなり。國を去つて京に入や父母なく兄弟なく他に倚るべきものなければ親友こそ唯一の父母なり兄弟なり、古より友の慰めにより失望落膽の淵より蘇りて天下に名をなしたるもの如何に多くあるかを見ば、親友の慰藉力大なるを知るべし。

(二)立志傳の慰藉。　同じく身を貧賤より起して刻苦精勵天下に名をなしたる偉人英傑の酸き傳記を讀まば、無錢者大に慰藉を得て益々奮起するの力を得るなるべし。

(三)神の慰藉。　神は萬物を支配し萬物を惠み給ふ愛の父なれば、人を愛し人を慰む、然りと雖も神の慰藉は信仰心あるものにあらざれば之を認むるを得ざるなり、余

は天下の無錢者が基督敎に歸依して神の盡きざる慰藉を得られんことを勸告す。

第六節　新聞の廣告を輕信すべからざること

近來無錢にして東京に出で自活し名を擧げんとする有爲の青年男女多し、爰に於て東京の山師詐僞師種々の方法を以て新聞に廣告し、地方の子女を欺きて金錢を卷き上ぐるものあり、其中に於て最も著しきは何々社とか云ふ者を立て男女の事務員を募集するとか、苦學生を募集し其志を達せしむとか云ふて、詐僞をなすものあり、又は個人の名義にて此の許僞をなすものあり、新聞の廣告中にも中には眞面目のものあり全く慈善或は必要に迫りて募集するものあるべしと雖も、よく東京の土地の事情を知りたる知人に就きて之れを圖り、而してなすを最も安全なりとす。

殊に保證金を要する處は最も危險なり、立派なる信用ある會社とか銀行ならば兎に角然らずして猥りに保證金を取りたがるは、保證金の詐僞を目的として居るものあり。よく〳〵注意すべきなり。

第七章　年齢に制限あること

老年に及んで突然發奮し天下の名士になりしとの美談は數あるも、今日は二十歳以上となりて、東京に出で自活し業を遂げんとするは已に後れたるにあらざるも錢なくして自活せんとするには、男子は十四五歳なれば最もよし、高等小學校を出でたらば直に上京して、小僧に住み込まんと欲せば、幾らもよき口ありて直に雇はるゝことを得べし、只悲哉此年頃は本人も無我無中に送り、父母も之を手放して上京せしむることを好まず、其中に年齢は二十歳前後となり、小僧に住込むこと能はざる年となりて、上京を企つ、之れ抑も多くは失敗に流るゝ素因なり、故に年齢は少なきを要す、女子は之に反して衣食丈は東京は男子よりも樂に求むることを得、又年齢も二十歳前後の方却て女子は可なり。

第八節　時勢の變遷を知ること

澁澤榮一安田善二郎の如き、我國經濟界の大立者たる金滿家は、昔一文なしにて東

京へ出たる一書生なり、伊藤博文、大隈重信の如き大政治家も又元は貧書生にてありし、吾も又書生なり、吾も又彼等の如く立心出世することを得べきか等聯想を畫くは抑もの誤りなり、絶對的に爰に達すること能はざるにあらず、と雖も、順序を蹈まずして一躍して雲上の人とならんと欲するは空想なり、加之常に胸中に不如意を嘆ぜる三四十圓の月給取りになりと雖も、成るは容易の業にあらず、金錢は充分、勉強は比凡、身體は強壯の三個具備するも、往々失敗して見る影もなき人となるを、然るを金なくして自活し、之を凌駕せんと欲せば宜しく我身を顧み、奮鬪勇進之を貫くの成算を立て不屈不撓の精神を以て勇進せずして可ならんや。

稀には農家に生れ乍ら、農事を嫌ひ、工家に育てられ乍ら工業を嫌ひ、東京にさへ出れば立派の人となれると思ふ者あり、之れ若氣の至りにて心得違ひの甚だしきものなり、可成子は父の業を繼續すべきなり、然し天性其れを嫌ひ、他に己れが好む業あらば其業を選むことは最も可なりと雖も一は勞働なるが故に之を嫌ふと云ふ如き怠惰心より樂をして名を擧げ金を得る道を求めんとする者あらば必ず其人は失敗する人なり。

第九節　腦及神經健全記臆力强健者なること

或農家の青年身體虛弱にして農業に適せず、故に學問に志し學問にて身を立て度きにより上京せんとて申越したる者あり、嗚呼是れ何たる世間知らずぞや、學事にて衣食する者は最も身心健全ならざればならず、農業の如きは勞働は烈しきも、衞生には自然に適してよき運動となるも勉學の如きは心身を苦しむること非常にして、身體健全のものと雖も往々疾病を釀し、中途にて斃るゝことあり、殊に勉學には腦力と神經とは非常に强壯にして、記臆は最もよき人ならざるべからず、若し學問に志あるものにて、腦神經不健にして記臆乏しき傾きあるものは「腦及神經健全法と記臆力增進法」と云ふ書を讀みて、之を實行し、大に之を强健ならしめざるべからず。

第拾節　異性との交際を愼むこと

青年男女中尤も身を誤るは異性との交際なり、殊に女子に於て尤も然り、例令潔白

の交際なりと雖も異性に近づき異性と言語を交へ或は書面を交換するとは絶對的に禁ぜざるべからず、若し夫れを敢てせんか雇人ならば必ず放逐さるべし、役人ならば必ず免職さるべし、人よりは誤解を受け信用を失して決して出世は出來ざるべし、又其れが基となりて方針を誤り目的を達せずして人の笑ひ物となりし例は少なからず、慎むべきは異性との交際なり。

況んや心中にてよい異性と交際でもして見んと云ふ下心のあるものは到底出世は六ヶ敷し、斯る腐れし心は堅く去らざれば東京に出づるも自活は六ヶ敷し、況んや成功に於てをや。

第拾壹節　樂をして金を儲ける考を去ること

何事でも局に當ると非常なる困難あるものなり、然し傍より見ると彼は遊んで金を儲けて居ると思ふものあるも、此世に遊んで樂をして金の儲かる職は全然なし金を餘分に得んとせば餘分に骨を折らざればならず、例令金が得らるゝと否とに關せず人は精力の續かん限り努力奮勵すべきなり、然るを樂をせんと云ふ腐れし

心あるものは到底出世は六ヶ敷し、自活も六ヶ敷し、今日名を擧げし人々金を積みし人々は如何に骨身を粹きしものなるか實に想像も談話にも盡せぬ難義を重ねて始めてなりしものなることを記憶すべきなり。

勞働にて自活せんとするものは雇人口入所に就きて周旋を乞ふはよし、然るとき入所にて相當の處へ案内して就職せしむ、就職の契約整ふと雇主と被雇主と相方より六ヶ月給金の五分を取る定めなり、一度就職したら又口入屋が尚よい處があるから暇を取つて行きては如何と勸めても決して動いては不可なり、口入屋は契約を仕代へると又口入料が取れるから幾度にても斯くするなり、注意すべきことなり、又女なぞは幾度も替へられて伴れあるかるゝ中に、女の道を誤らせ取り返しのつかぬ境遇に入れらるゝことあり、尤も慎むべきなり。

無錢にて東京に出で自活し名を擧げんとする者に警告すべき事項は以上拾壹個を以て其主なるものとす、若し夫れ以上拾壹個の條項を堅く守つて東京に出でんか意のある事卽ち成るとの諺の如く其成功は必して俟つべきなり。

第二章　小學卒業者東京にて自活する方法

無錢にて東京に出でて自活せんとするには如何なる職業に由るべきかを說明せんとす、其職業の種類たる其數多く單に一二に止まらず無錢者が自活の方法は種々あり、只無錢者は自己の性質と目的とに從ひて最も都合宜き最も便益なる職業を選擇するにあらざれば失敗を招くに至るべし、而し乍ら元より何の職業に從ふとも初は金を充分に得る能はず身體は安樂なるものにあらざる事を豫期せざる可らず、左に其種類を上げて之を說明せん。

(い)新聞配達　單に新聞配達と云ふも其種類は一ならず、本社直配達あり、賣捌直配達あり、新聞賣子あり、新聞の配達は只新聞紙を配布するに止まるを以て僅かに三時間か四時間にて足り、他は自己の自由の時間なれば時間上に何等の痛痒なく朝食前の散步と見れば可なるが如し、然れども實際其業に當らば仲々に思ふが如く容易のものにあらず。

(一)本社直配達　本社直配達とは新聞社が直接に購讀者に配達するために使用するものを云ふ、何れの新聞紙と雖も必ず直接の購讀者あるものにして此購讀者に配達するためには配達人を置かざるべからず、其數は社によりて異り或は十人位なるもあり、或は二十人三十人多きは四五十人に達するあり。

(ア)賃金　本社に雇はるゝ配達人の賃金は一樣ならず、社によりて異るのみならず勤勉と怠惰とにより、又古參と新參とにより區別あるなり、然れども大抵月十一二圓なり、此賃金は最初の平均高なるを以て、永く務めて監督者より勤勉家なりとの評を得れば次第に昇給するものなり。

(イ)勞働時間　配達人は本社に出勤せざる可らず、其出勤の時間は大抵夜の十一時頃とす、而し社によりては二時頃迄にて可なるもあり、出勤時刻に遲刻するときは社によりては罰金を科する規則あるものもあれば、又何等の罰則なく單に其日の新聞を滿足に配達すれば宜ろしとするものありて一定せず。

配達人は出勤するや直ちに其日に配達すべき枚數を數へ、住所姓名の札と枚數との間に差違なき樣になすなり、大抵之にて配達までは用事なく新聞を渡さる

るまでは休息するも勉學するも隨意なり、而し乍ら社によりては地方行郵送の分まで配達人に始末せしむるあり、之にも又種々ありて或は義務的に命令するもあれば、或は希望者のみに命ずるもあり、或は手當として五錢位を給するもあれば給せざるもあり。

以上の仕事を終れば自己が受持の數の新聞紙を渡され之を少さく折りて配達に出かけるなり、配達時間は新聞により、配達人の數により、受持の區域により一定せざると雖も大凡二時間乃至四時間を要するものなり、故に二時より配達に出かけるとせば朝の五時か六時頃には配達を終りて歸宅するを得るなり、夕刊を發行する社にては午後一時頃より又夕刊の配達をするなり。

(ウ) 睡眠と勉學又は休息の時間　以上の勞働時間以外は卽ち睡眠と勉學又は休息の時間なり、尤も食事の時間も此中に包含せらるゝなり、一口に食事の時間と云へば甚だ僅少なる如きも、無錢にて自活する者は大概自炊なれば裕に一時間は之に費さゞる可らず、又繩のれんと云ふ安飯屋に行きて食するなり然るも三十分時間位は要す、故に六時に配達を終り歸宅して足を洗ひ食事を終れば最早八

時頃となるべし、自活しつゝ通學せんとする者は學校の授業が九時に始まるものとせば僅に一時間の間あるのみ、故に四十分位は眠りて昇校するなり、若し眠らずして昇校せんか疲勞せる爲め精神働かず忘然として學科も理解する能はず、學校より歸宅すれば又四時間か五時間睡眠して八時頃に起床し、學料の復習翌日の下讀をなし規定の時間には又本社に出勤せざる可らず、夕刊發行の社にては然るを得ず。

通常は以上の如く睡眠と勉學の時間あるも、時に由ては號外を配達せざる可らざることあり、號外の配達には別段に配達人を設け置くものにあらずして通常の配達人を臨時召集して配達せしむるなり、號外が一回位なれば尙可なるも第二號外第三號外等と續々出づるときは睡眠の時間も勉學の時間もあらざるなり況んや此くの如きことが數日打續くことあらんか、配達人の勞苦仲々堪へ得るものにあらず、新聞配達の最も辛しとするは實に號外配達にあり、但し號外配達の場合には一日分の手當あるなり、戰爭中は號外毎日の如くなりしも、平和の今日に於ては號外は稀なり。

(二)賣捌直配達　賣捌直配達とは賣捌所が各新聞社の新聞を賣捌く傍ら其直接讀者に配達するため使用せらるゝものなり、賣捌店は市内各所にありて其數甚だ多く何れも各新聞を集めて之を小賣にし、又は月極購讀者に配達するものなり、故に賣捌店にても配達人を要す、此配達は本社直接配達と異り或家には萬朝報或家には時事新報或家には讀賣新聞と云ふ如く種々の新聞を配達せざる可らず、此く各新聞を取まとめて配達にかゝるが故に、配達時間も又本社直配達とは異り遲く始めざる可らず、通常五時頃より配達にかゝりて七時に終るが例なるも賣捌店によりて一定せず、尚最初にて馴れざる内は多くの時間を要するは勿論なり。

賣捌直配達人の賃金は六圓乃至七圓なり。

賣捌店にては各新聞社の新聞を取集めざる可らざるを以て新聞社より新聞を持ち來るなり、之を紙取と云ふ、紙取は大抵配達人の中にて順番に務むるなり、但し大なる賣捌店にては別に紙取を雇ひ置くものあり。

(三)新聞賣子　新聞賣子とは賣捌店より毎朝新聞を仕入れて毎日市中を賣り歩くものを云ふ、殊に電車停留所にて夕刊を賣るものあり即ち新聞紙を小脇にかゝえ

鈴を鳴らして萬朝一錢報知が一錢又は夕刊一錢などと賣り歩ける青年は即ち此賣子なり、賣子は他の配達人の如く月々一定の收入あるものにあらずして、或は多く賣れることもあり僅かしか賣れざることあり、最初馴れざる中は場所も樣子も知れず華客もあらざるを以て、仲々賣れざるも經驗を積むに從ひ少時間を以て多く賣り、且つ華客も出來て月きめの讀者も生ずるなり、然れども賣子は配達人と異り賣れざるときは賣子の損となる危險を帶ぶるものなれば成るべく本社又は賣捌の配達人となる方安全なり。

賣子が新聞紙を賣捌店より仕入れる代價は新聞紙により異り從て其利益も異ると雖も平均一枚の新聞紙にて二厘五毛乃至四厘なり。

賣子は本社配達賣捌直配達と異り賣れゝば德となり賣れざれば損となると雖、時間の上に於ては大に氣樂なものなり、若し多くの收入を得れば貯金して不時の用に供し、骨休みをするも勝手なり。

(ろ)車夫　と云へば僅かの賃金のため人を乘せて牛馬の如く駈ける下等の職業なれども、身體には之れ程自由なる仕事はなし、新聞配達と云ひ牛乳配達と云ひ毎朝

一定の時刻には必ず勤めざる可らざる義務的職業なり、況んや食客官省の雇人の如き主人持の仕業は一層の拘束を享くるものなり、然れども車夫は自由なり、一日に三四日分の收入を得れば二三日間は何の苦もなく暮す事を得、若し何にか祭日にて田舍人が見物にくるときは金儲となり忽ち貯金するを得、此くの如く身體の自由を拘束せられざるのみならず、新聞牛乳の配達の如く人員に一定の制限なきものなるを以て、從來此の業に從事する青年多かりしなり、近年電車が出來たるため車夫は打擊を蒙りたりと雖も尙望なき職業にはあらず。

(ア)車夫の種類　車夫には抱夫、挽子、朦朧の三種あり、自活は何れにてもなすを得るも餘暇に勉學するに適するは朦朧車夫のみなるも朦朧車夫はなすべからず。

(抱夫)　抱夫車夫は一定の主人を取りて主人のために働くものなり、主人の家に寄寓するもあり、別居するもあり、抱夫は主人の飯を食ひ、主人の車を挽き半被股引笠合羽等何れも主人より渡されて自辨のものは何一つなし、勞働は單に主人の指圖に從ひ主人又は其家族を乘するのみならず、朝起きては庭の掃除をもなし又使にも行かざる可らず、夜間は大抵餘暇あり幸にしてよき主人を得れば隨

分可愛いがられて金を遺すことを得べし、給料は大凡十五圓內外の月給なり。

(挽子)　挽子は人力車屋の車夫にて人力車宿に同居するものなり、東京のみならず繁華の地には人力車宿ありて四五人乃至十數人の車夫を雇置き人力車を挽かせて其口錢を取るを營業とす、此に雇はれたる車夫を挽子と稱す、車賃は挽子のものとなり(或は其幾分を跳ねらるゝことあり)主人は布團料座敷料を取りて挽子を起臥せしむ、客を挽くには每日順番を追ふて廻り〳〵て仕事を爲すなり挽子は金錢は割合に多く得らるゝも餘暇に勉學でもせんとする者には適せず。

(朦朧車夫)　朦朧車夫はブラリ〳〵と市中を挽き廻して客の求めに應ずるものにして、抱夫挽子と異り全く自由氣儘の商買なり、元來車夫は人力停車場に客待ちをなし居りて乘車を勸むべきものなれども、其にては乘客少く又番ありて客を自由に取ることを得ず、去れば止むを得ず道路をブラリ〳〵と朦朧し乍ら客に乘車を勸めるなり、而し巡査に見つかるときは人力車營業規則違反の廉により二十五錢乃至一圓の科料に處せらる、故に朦朧車夫はなすべからず。

學問なくして無錢にて自活せんとする者が車夫となるには朦朧は都合よきも

營業規則に觸るゝこと故面白くなし故に此業に從事せるもの今は甚だ少なし、苦學生が此業を爲すには黄昏時より車を挽き出して、夜の十二時か一時頃止むるなり、收入は時によりて異り一定せず、僅二三時間の間に五六十錢の收入あることもあれば一夜に三十錢位の時もあり、故に一ヶ月の收入何程と一定するを得ざるも平均一夜六十錢位は容易なり、黄昏時は人足繁く最も客の多き時なり、又遊廓通ひの道を朦朧する時は甘き收入あるものなり。

平均一日六十錢の收入ありとするも其中より輪代蠟燭代草鞋代等を支出せざる可らず、輪代は五錢草鞋三錢五厘蠟燭二錢小使五錢とすれば丁度四十五錢計の純收入ある譯なり、一日三十錢あれば裕に生活費は足る後は貯金となるなり。

或苦學生語りて曰く車を挽き初めてからは金錢自由になる所より遂ひ餘計の物を求めて月末の勘定足らざることあり、と故に毎夜の收入は箱へでも入れて蓄へ置くをよしとす。

(イ) **車夫となる手續**　車夫となるに一定の手續を必要とす、先づ紺木綿の半被紺の股引雨合羽饅頭笠の四品を揃へて區内の人力車組合事務の承認を得、警察署に

出頭して車夫の檢査を受け鑑札を渡され、更に鑑札を持ちて組合事務所に至り組合員となるの手續をなすべし、此手續濟めば組合より規約證を渡す、此規約證を持ち行かば組合内は何れの貸車業者と雖も車を貸すなり。

(ウ) **地理の心得**　新聞を配達するにも牛乳を配達するにも地理の心得なければ不便なるも、車夫には地理を知ることが特別に必要なり、或所が何處にありて何町位の道程なるを知らずして非常に廉價にて挽く事もあるべく、又知らずして高價を吹きて客を取逃すことあるべし、車夫を始めたる者が地理を知らざるための滑稽談は多くあることなり、現に車夫を業として中央大學に通へる某苦學生が未だ上京して車夫を始めたるばかりの時、本郷元町にて一人の客神田三崎町迄幾計と云ふに某は三十錢下さいと答へければ、客は驚きたる樣子なりしが又笑ひ出して然れば本郷根津までは幾計かと問ひ出せり、某は神田は他區なれば遠きも根津は同じく本郷區にて三崎町より近いと誤認し十五錢下さいと答えけるに客は腹を抱へて大笑し、遂に乘らずして行けりと、此の如き滑稽は時々あることなれば最初地理を明にし近道を知り尚相當の賃銀をも暗誦し、而して後

に挽くべし。

(は)牛乳配達　無錢者が現に此業によりて自活し居るもの其數多く又此業により成功し判事檢事辯護士會社の取締役等になりたるもの少からず。

一概に牛乳配達と云ふも其種類は三ありて牛乳搾取販賣所雇配達人、牛乳小賣販賣所雇配達人、牛乳獨立販賣配達人とす、此中最も勉學に適するは獨立販賣配達にて、自活せんとして牛乳配達をなす者は大抵之なり。

(ア)牛乳搾取販賣所雇配達人　牛乳搾取業者は大抵搾取所を郡部に設け販賣所を市内に置き、而して搾取と販賣とは別に雇人を置くなり、搾取人は乳を搾り牛を飼ふを業とし終日暇なく勉學などは到底出來ざるなり、販賣所にては搾取所より運び來りたる牛乳を小賣人へ卸賣をなし、又直接需要者に配達をなす配達人は此配達のために使用せらるゝ雇人なり。

配達人は朝三時頃に起きて配達すべき丈けの壜詰牛乳を受取り、箱車に詰込みて配達に出かけるなり、配達を終りて歸宅するは七八時なり、歸るや早速集め來れる空壜を洗ひ消毒して乾し午後の準備をなす、午後二時頃になれば夕刻の配

達に掛り、配達を終れば又空壜を洗ひ消毒して明朝の仕度をなす、之にて一日の仕事は終り夜は暇あれば夜學校に通ふには差支なし。

收入は比較的多く、食事は主人の負擔にて小使は最初二三圓位なる割前と云へる所得あり、割前とは配達したる牛乳の賣上高より月々幾割かを給するものにて、其割合は家により異るも大凡賣上金高の四分乃至六分なり、配達の量多ければ割前從つて多く、配達の量少ければ割前從つて少きも如何なる配達人と雖毎日八九升は配達するなり、故に月給僅かに二三圓なるも十七八圓は收入ある勘定なり、若し夫れ一斗五升も配達すれば三十圓位の收入となり自活しつゝ勉強も出來貯蓄せば、百圓や二百圓の資本を得るは容易の業なりと雖も餘裕あるため却て精神を腐らすは此業者の常なり。

(イ)牛乳小賣販賣所雇配達人)　牛乳小賣販賣所雇配達人は牛乳搾取販賣所雇配達人と別段に差異なく、其仕事も其賃金も恰んど同一なり。

(ウ)牛乳獨立小賣販賣配達人)　此者は他人に雇はるゝにあらずして獨立に小賣販賣と配達とを兼ね、行ふものにて自活しつゝ勉學せんとする者は此業を選むに

若かず。

此業を爲すには道具等は自ら求めざる可らず、極く必要な道具は如何程位要するかと云ふに假りに華客四升と見積れば五勺壜三十本(新なれば一本三錢五厘中古なれば一錢五厘位)一合壜五十本(新なれば五錢中古なれば二錢位)提げ鑵一個(一斗入鑵新にて一圓位中古にて四十錢位)もあれば澤山なり。

又牛乳配達は清潔ならざれば飲む人從て心地惡く華客も減ずる譯故服裝も清潔にせざる可らざるを以て之にも多少は資本を要す。

獨立小賣販賣配達人は獨立して營業をなすものなれば自ら奔走して華客を作らざる可らず、華客を作るは少しく困難なる如きも事情を訴へて賴めば今迄の配達を替へても自己の牛乳を飲んで呉れるものなり。

又華客を作るには配達時間を經濟にするため成るべく狹き區域内に多く作る樣注意すべし。

牛乳の仕入は大抵一升二十四五錢なれば一合四錢宛に賣りて一升に付十五錢の利あり、故に毎日二升配達すれば毎日三十錢の收入ありて生活には十分なり

去れど壜の破損等もあれば此費用をも償ふため一日二升五合以上を配達するに至れば裕に生活することを得、勿論信用を得顔が知れて來れば四斗や五斗の華客は忽ち生ずべし。

勞働時間は毎朝三時に起きて提鑵に牛乳を仕入れ來るなり、又自宅へ配達して呉るゝ定めもあり、其れを壜に詰め配達に出掛け、七時頃には終るなり。

(に)筆耕　筆耕は文字を筆寫する業にて文字を鮮明に且つ正確に書き得る者には高等小學卒業の學力にても出來るものなり、近年筆耕は盛になりて現に東京には之を一の業となすものあり、筆耕をなすには筆耕社へ通勤するも可なるが筆耕の幾分を刎ねらるゝ故、筆耕社の雇とならず獨立して筆耕の原料を見付け自宅にて筆記爲す方宜し、辯護士著述家に事情を語りて相談すれば仕事は十分有るものなり。

賃金は十行二十字詰の罫紙一枚にて二錢五厘位なり、而して一時間に熟達者が五枚素人が一枚半位書き得、故に一日に熟達者は五十枚未熟者も十五枚位は書くを得て裕に自活することを得。

(ほ)文房具商　文房具商は筆硯墨ペン鉛筆帳面等を賣る商賣なり、而し無資力者の營む文房具商は一軒の家を借りて店を張るにあらず、箱を負ふて賣りあるく行商なり、資本は三十圓もあれば可なり仕入をなすに足る、最初樣子の知れざる中は買ふ人少きも、段々に華客が生ずれば商買も多く收入も多くあるなり、近來苦學生にて此業をなすもの少からず。

(へ)屋臺店　屋臺店とは市中の道傍に屋臺を出して飲食物を商ふものにて、或は鮨屋あり或はおでん屋あり太福餅屋あり燒鳥屋あり、素人が此業をなすには成るべく手數のかゝらぬものを選むべし、其れにはお傳屋太福餅屋が適當なり、現に晝は學校に通ひ夜は大福餅を賣り又はおでん屋をなせる苦學生少からず。

(ア)お傳屋　お傳屋をなすには一ヶ月損料三圓位の屋臺店を借りるなり、之には二ヶ月の敷金を要す、掛行燈、暖簾、幕、銅壺、洋燈、德利、皿、小鉢等の一切の道具を調へるには約二十圓を要す、此他原料なる芋、蒲鉾、蒟蒻、酒等を仕入るには十五圓乃至二十圓を要す、收入は一夜にて純益五十錢は易々たるものにて時には一圓位の純益あることあり。

(イ)大福餅屋　大福餅屋の資本はお傳屋程は要せず、屋臺は一ヶ月損料一圓位のものにて可なり之を借るにも敷金として二ヶ月分を要す、道具もお傳やの如くは要らず、只今戸燒火鉢一個(代金三十錢位)大福を燒く鐵板(古六十錢位)其他ブリキ藥鑵一個、混爐一個、湯呑茶碗の五六個あれば澤山なり、此等道具代總計二圓五六十錢及び大福餅の仕入料三圓位なり。

收入夕刻より夜十二時頃迄にて少くも四五十錢、多きときは一圓內外の利を見るべし。

(と)小間物行商　目下此商賣で市中を賣り歩く苦學生四五名あり、單に廉價のものみならず多少は高價の奧樣御孃樣向の小間物を持ちあるき通常の小間物店よりは二割も廉く賣れば買人は幾計もあり、二割位廉く賣りたりとて利益は十分にあるなり、仕入は廉く出來るもの故資本十圓もあれば一寸した行商は出來べし。

(ち)官省會社の雇　學識の少しくある者は官省會社の雇となりて勉學することを得、中學校へ通ふ學生には此種のものなしと雖、私立法律學校其他夜學校等へ通ふ學生には官省會社の雇となり居るもの少なからず、時間は官省會社により異

ると雖、大抵朝八時若くは九時出勤午後三時若くは四時頃迄の勤なり、月給は八圓乃至十二三圓なり。

(り)巡査　巡査となりて勉學するものは多く法律學生なり、巡査となるには試驗を要す科目は作文、筆算(四則)法律(警察法、刑法、刑訴法)等あり、法律と云ふも名のみにて六ヶ敷事はあらず、試驗に及第せば教習所に入り巡査に必要なる法律及び體操繩のかけ方等を習ひ卒業すれば教習所を出でて署に廻さるなり、勤務は一晝夜交替なれば隔日に勉強なり休息なり出來るなり、月給は教習所に居る間は九圓、署に入れば被服料等合計十七八圓なり、詳細の手續は芝の巡査教習所に至りて問合すべし。

(ぬ)讀賣　讀賣は夜店のある所又は緣日等多くの人が集合する場所にて、路傍に立ちて歌を歌ひ歌の本を賣るなり、目下東都にて自活しつゝ勉學せんとする者にて之を爲す者甚だ多く到る處の夜店緣日に於て之を見るなり、此業は大抵夜のみなり、牛乳配達車夫と異り別段に手續も要せず多くの資本も要せず、大福餅屋おでん屋の如く道具も要らざる至極簡易なる商買なり、資本は三四十錢もあれば澤山歌

の本を仕入れることを得、只喉を痛くして歌はざる可からざるも之には別段資本を要せず。

收入は夕刻より十一時頃迄にて三十錢乃至四十錢の純益なり、勿論之は平均高にて時によりては十錢位の事もあるべく又一圓位の事もあるべし。

(る)食客　良家の食客となるは青年男女にとりて最も身を立てるに安し、卽ち義俠に富める人の食客となるならば、勿論食料は給され、衣服は與へられ、小遣錢も與へられ通學の時間も與へらる、而して其間家事を手傳ふなり、故に自活勉學の最良は食客なり、而し稀には勉學の時間を與へるとの口實を以て雇入れ、其實毫も勉學の時間を與へず、終日勞働に從事せしむるもあり、其れでは勉學は不能なり、殊に當時人員充ちてよき食客の口は殆んどなし、餘程よき手づるあるものにあらざれば、棲み込むこと能はず、況んや突然田舍より上京して、身元の紹介者なきものを雇入るゝことなし、其れを雇ふのは勉學の暇なき勞働の仕事のみ、深く注意すべし。

(を)催眠術師　獨立自活するには何にか一トつ技術が出來ると樂なり、催眠術は之れに最も適す、催眠術の出來るものを大家にては家庭に雇ひ置き、常に心理治療を

受けんとする傾きあり、卽ち一日に一時間位づゝ治療をしてやれば、あとは氣儘に勉學するなり遊ぶなりすることを得、食物は給され給料は得らる、故に勉學には最も適す、大家では醫師を抱へ置きしが、今は醫師を廢して家庭催眠術師を抱へ置かんとする傾きあり、催眠術治療所を開業して醫士より盛んのもの數多あり、一ヶ月百圓位收入あるもの少なからず、又三四十圓位のものもあり、單に衣食小遣に過ぎざるもあり、催眠術は少し學問のあるものが三週間も學ぶと上手に出來るものなり、田舍の自宅に居りて通信敎授を受け獨習にて大に成功したるものも少なからず、目下婦女の催眠術師大に歡迎さる。

(わ)女中奉公　東京にては御飲炊きをするにも高等小學校位は卒業してなければ勤まらず、況んや料理のことをすると云ふには餘程慣れぬと出來ず、然し骨身を惜まず勤めさへすれば可愛ひがられて甘ひ物を食ふて美しひ衣服を着て居つて一ヶ月に三四圓位は貰へるなり、女中にも炊事係、仲働、小間使などあり、仲働は客の取次ぎ座敷の掃除等をする、小間使は主人又は奥さん附きとなつて其身廻の用を爲すなり、給金は同じく三四圓なり、小間使の內には學者あり女子師範學校位は卒業し

たものは往々あり、又其位の學問がないと甘く勤らず。

(か)女子事務員　個人の家又は會社銀行等にて女子事務員を近來使用す、女子事務員となるには筆が少し執れ珠算に少したけて居らざればならず、一ヶ月通勤すれば十二三圓住込なれば七八圓位なり。

遞信省內貯金爲替部又は汽車の切符賣に女子を採用す、月給は十二三圓なり募集は時々新聞に廣告したり又は掲示したりす。

(よ)大道易者　著者の友人に目下大道易者を成して自活しつゝ貯金せしものあり又は勉學せる者あり、こは最も身體の勞力少なく、比較的收入多し、彼の言ふ所を聞くに、先づ坊間に散見せる易學に關する二三の獨習書を讀みて、少しく自己に考ふる所あらば判斷を下す如きは容易なり、これが練習は、先づ友人間の身上判斷、下宿屋の下女の運勢を見てやりなどして、少々練習し來れば、東京ならば淺草公園に出でゝロハ臺の傍、或は木の下などにて提燈を出して、其の四邊を通る人を呼び留め講釋を始めると忽ち人が周圍に集り判斷を依賴する者意外に多くある者なり、一ヶ月收入多き時は廿四五圓乃至卅五圓位、梅雨期は每年最も收入の少なき時なる

も十五圓位にはなると云へり、斯業は法律、純文學等の學を修めんとする者には不向ならんも、哲學、教育、宗教等の學を修めんとする者には最も有利にして且つ趣味深きものなるべし、殊に自活しつゝ金さへ貯へればよいと云ふ人には尤も可ならん。以上に述べたる職業の外醫士辯護士の事務員又は玄關番、商店の雇人、緣日の夜店商人、手内職、活版又は製本所の職工其他種々の業を營みて自活しつゝ勉學するなり貯金するなりする者あり、諸君の讀んで以て己の性質に合せる職業を採りて之を實行せよ、西哲の言の如く汝の求むる所に汝の道はあるものにして、精神堅固にしてよく勤めさへすれば自活の方法は多々あり、何ぞ一文なしを憂へんや何ぞ適業なきを嘆かんや、請ふ天下の無錢者起つて後日の大業を計れ、乍去呉々も注意すべきは父兄と相談して父兄の許可を得父兄の指圖に從て上京すべきとなり、若し何等の目的もなく輕忽にも東京へさへ出づれば、樂をして立派の人になれると思ふて、父母の承諾をも經ずして東京へ來ることとなり、斯くの如きことをすると東京へは出でたるも、出世所か糊口に困まり、進退谷まり裸になりて故郷に歸り、近隣の笑を招き或は困まる所から、終にはよくなき考へを起し警察の厄介となり或は

自殺せんければならぬ樣な不幸に陷ることあり戒めずして可ならんや。

十四五歳の男子と貳拾歳前後の女子とを雇入度し希望の御方は自筆の履歴書を御送りなさいませ

博士書院

男女東京にて自活する法 終

附錄 田舍生活副業法

第一章 總論

人は幼少のときより獨立自活の氣象を養はざるべからず、人によつて金を借り其金で身を立てんなぞと云ふ心の腐りたるものは到底出世は出來ず、飽く迄獨立獨行なることを要す、幼年の折父母に强請して金錢を貰ひ其れを使ふ風習は堅く嚴禁せざれば終には其子は成長して他人に金錢を强請して警察の厄介を受くる樣のことになるべし、故に少年の時より金錢が欲しきときは働くべし、働けば金錢は出來るとの心を深く精神に刻むべし、之れ余が田舍生活の人に副業法を勸めんとする第一の理由なり、又何れの家にても子弟が充分なりと云ふほど小遣錢を與ふる事は出來ざるものなり、よりて子弟姉妹たるものには小遣錢が欲しければ自から働ひて得るに如かずとの考へを起さし、其れを實行せしめ一家の經濟を助くる樣にせんとの考へが此副業法を說かんとする第二の理由なり。

第二章 各論

田舍にて生活し居る者が通學の餘暇又は本業の餘暇になし小遣錢を得る方法たる副業を次に列擧せん。

(一)養雞　雞の七八羽も飼育すると只朝夕少しく世話をする丈にて一ヶ月二三圓位の收入あり、少年の小遣は其れにて充分に足り父兄の脛をのみ噬らですむことなる。

(二)新聞配達　朝早く起き朝食迄に二三十軒宛の新聞を配達せば、運動ともなり一ヶ月に二三圓の收入を得ることを得、而して毎朝二三十軒位新聞を配達することは容易に出來ることなり。

(三)繩なひ　農家の子弟等には毎夜遊びに行く時間にて繩をなひ、其れを賣つて貯金し不時の用に供すは簡便にして利あり。

(四)竹の皮拾ひ　竹林ある處にては餘暇に子女をして竹の皮を拾はしめ置き、賣ると存外よき收入となるものなり。

(五)本業の分立　爰に余が本業の分立と云ふは農業なり商業なり工業なり各其子女に之れは誰の分であると云ふて其者に獨立して仕事をさせ、其收入を其者の小遣とすることなり、例へば農家なれば自宅にては二十俵地の米を作る、而し其子息の小遣料として別に二俵地を其子息に獨立して作らしむ、然ると子息は慾が出來て自分の田の二俵地をよく作らんとて餘分に肥料をかけたり、耕作法を研究したりするものなり而して得たる二俵地よりの收入全部を其子の所得とするなり、然る定めにすると全く普通ならば遊ぶ暇に二俵地の耕作をなし終るに至るものなり。

又商業家で云へば學校へ通學中の子弟にても、朝夕其家の品物を賣らして其所得を其子女の小遣錢となさしむるなり。

工業にて云へば日曜日又は休日に仕事せるより生ずる收入は其子女の小遣錢となさしむるなり。

斯くして年少の子女と雖も自ら働ひて自ら錢をとりて遣ひ、又は其錢を貯金して樂むと云ふ良習慣を養成することと肝要なり、普通親より金圓を强請して取り忽ち

遣ひ盡して又强請しては取り、而して又忽ち遣ひ盡すと云ふ惡風を改良せざるべからず。

斯の如くして僅か宛ながら貯金して其れを資本として大事業をなせしもの少なからず、近時の青年男女は大に誤解して學問さへ出來れば直に豪ひ人になれると思ふて、職業を嫌ひ學問にのみ志すものあるも大なる誤りなり、學問も必要には無論相違なひが、學問よりは實地の勞働の方が成效し易し、實地の勞働こそ必ず其人を成功せしむる所の根源なり、余が以上に述べたる處は卑近のことにて百年も昔に千も萬も承知のことにて一讀の價値なしとて顧みざるもの若しあらんか、其人は成功覺束なき人なり、卑近のことなるも實地に之を行ふて見ると實に有益のものなり、若し何にか樂をしてよひ錢儲が出來る方法を書ひたものかと思ひたら、こんなことかと云ふものは、其人は自ら自分の成功を破る人なり、青年男女の愼むべきは虛榮心なり、決して見へを張るなかれ、見へを張るは失敗の基なり、余は黑くなつて働く青年を見れば實に立派に氣高く見へて、成功するは此人なりと胸中に同情溢れざることなし、之れに反して青年にてメカシた風をなし、遊び居るものは造

糞器として嫌な感を惹き起してたまらず、青年子女願くは口先の人、遊びの人とならず實行の人、勤勉の人となれかしと云爾。

附錄

田舍生活副業法

終

明治四十四年九月一日印刷
明治四十四年九月十六日發行

男女 東京に自活する法

定價金貳拾錢

東京市芝區琴平町三番地
著作兼發行人 古屋景晴

東京市芝區愛宕町三丁目二番地
印刷人 中野鐵太郎

東京市芝區愛宕町三丁目二番地
印刷所 東洋印刷株式會社

東京市芝區琴平町參番地
精神研究會附屬
發行所 博士書院
電話新橋一八七五番
振替口座東京一五七一三番

不許複製

大賣捌所
東京堂 東京神田區表神保町
杉本書店 大阪東區北渡邊町
文光堂 東京本郷區本富士町
上田屋 東京神田區裏神保町
東海堂 東京京橋區尾張町
勉强堂 東京神田區小川町

新刊 氣合術獨習法

講道館長 嘉納治五郎先生題
米國文學博士 松本君平先生序
精神研究會長 古屋鐵石著

菊大版壹百參拾有餘頁
價郵税共五拾四錢

氣合術は催眠術の極意にして精神修養の秘訣なり

（目次）（一）緒言（二）精神と氣合術との關係（い）氣合術は精神力により行はる（ろ）精神研究に對する科學と哲學との範圍（は）科學上より見たる精神（イ）精神の起原（ロ）精神能力（に）哲學上より見たる精神（イ）精神は原子にして火質なりとする說（ロ）精神は本體界の一部分なりとする說（ハ）精神は身體の圓極なりとする說（ニ）精神は物との聯合なりとする說（ホ）精神は靈魂なりとする說（ヘ）精神觀の將來（三）氣合術を行ふ極意（イ）丹田の修養（ロ）無念無想の修養（ハ）氣合術修得の苦行（ニ）武術上に行はれし氣合術（ホ）兵馬が行ひし氣合術（ヘ）無念流の行ひし氣合術（ト）小野治郎左衛門と柳生宗矩との區別（五）文明天下無敵法としての氣合術（イ）金儲の祕決としての氣合術（ロ）眞劍の勝負は氣力の强弱（ハ）柳生宗矩が澤庵和尚に學びし練膽法（ニ）宮本武藏が長春和尚に學びし練膽法（ホ）膽力養成法としての氣合術（ヘ）圓轉滑脫の妙境（七）心身健康法としての氣合術（イ）膽力と肉體との關係（ロ）膽力養成の祕決（ハ）柳生宗矩が澤庵和尚に學びし練膽法（ニ）宮本武藏が長春和尚に學びし練膽法（ホ）膽力養成法としての氣合術（ヘ）膽力養成法としての氣合術（ト）精神療法の根底（ロ）柔術の無形的極意と有形的極意（九）精神療法の眞髓としての氣合術（イ）催眠術の極意（ロ）精神病を治したる氣合術（十）催眠術の極意としての氣合術（イ）柔術の極意としての氣合術（十一）柔術の根底（ロ）柔術の强弱と勝敗との關係（ハ）相撲の奧義（ニ）相撲の奧手（十二）相撲の極意（十三）氣合術應用の實例（イ）霊（ロ）氣合術の巧拙と膽力の强弱（ハ）元氣の强弱と勝敗との關係（ニ）相撲の奧手（十三）氣合術應用の實例（イ）疼痛（ロ）習字の祕決としての氣合術（ハ）念延長法としての氣合術（ニ）歩行停止法としての氣合術（ホ）口中點火法としての氣合術（ヘ）道の奧義としての氣合術（ト）熱鬱瘤皮法としての氣合術（チ）燃火冷感法としての氣合術（リ）力量增加法としての氣合術（ル）鐵棒屈曲法としての氣合術（ヌ）不動金縛法としての氣合術（十四）結論　以上

▲氣合術は膽力養成法として最も妙なり▲

岩谷大人題　古屋鐵石著

男女運命豫知術

一名 プランセット術

菊大版壹百頁寫眞版木版挿入　價郵税共四拾四錢

（目次）プランセットとは何ぞや◎プラヘットとは何ぞ○プランセットの沿革○日本に於けるプの元祖◎プランセットに類せる術●人格變換術○人格と性格との別○人格變換の根本的事實○數個に分裂したる人格○催眠術による人格變換の實例▲狐狗狸術○コックリの構造○使用法と原理○井上博士の實驗と學說○机轉術（テイブルトルニング）▲机轉術を行ふ方法○ゴットフレー氏元良博士の實驗談○理論▲自動書記術（オートマチック、ライテング）○自動書記の現象○福來博士の說○カーネ氏の實驗○著者の實驗○自動書記による天眼通的實驗○理論○高島平三郎氏の說▲水晶凝視術（クリスタルゲーシング）○水晶凝視とは何ぞ○水晶凝視を行ふ方法及び其效果○原理▲心讀術（サイコメトリー）○心讀術の現象○其方法○平井金三氏の說○理論▲鬼神術（スピリチユアリズム）○鬼神術の現象○幻妙不思議○井上元良兩博士の說◎プランセットの使用法○金と女とに對する運命とプランセット○米國に行はるゝ使用法○使用上注意すべき點○金儲の成否を占ふ法○米相場の高低を前知する法○配偶者の選定方を占ふ法○如何なる配偶者に緣あるかを占ふ法○病氣の治法を占ふ法○如何にせば目的を達するかを占ふ法○養蠶の豐凶を前知する法○金と女との不足を醫する法○女の心を知る法○吉凶の前知を占ふ法○鬱春○プの過信を避くべき事◎プランセット實驗例○外國大家と我國人との實例○平井金三氏と朝比奈米作氏との實驗◎プランセットの活動する原理○福來博士の說○潛在的精神とは何ぞや○精神分裂とは何ぞや○信用厚き學者の說○參考書名

南大醫跋　古屋鐵石著

驚天動地 反抗者催眠術

菊大版壹百頁寫眞版木版挿入　價郵税共四拾四錢

（目次）緒言◎反抗せる鳥獸を催眠せし實驗◎反抗せる人間を催眠せし實驗◎反抗者を催眠せし實驗◎暴行せる狂人を催眠せし實驗◎反抗者に手を觸れずして催眠せしめし實驗◎心と心と談話せし實驗◎催眠術を施さるゝことを知らずして遠く離れ居る者を催眠せし實驗◎不承諾者を催眠せし實驗◎術者と患者と遠く離れ居りて催眠治療を行ひし實驗◎諸博士立會の上遠方に居る者を催眠せし實驗◎被術者反對に施術者を催眠せし實驗◎麻醉藥を用ひて行ふ催眠法◎大家の常に行ふ催眠法◎メスメルの催眠法◎プレートの催眠法◎ベルンハイムの催眠法◎リエボーの催眠法◎シヤコーの催眠法◎イスデールの催眠法◎フアリアノ催眠法◎ポーニスの催眠法◎ツエツターストランドの催眠法◎ヴアンイーデン及びヴアンレンターゲヒムの催眠法◎リツチエトの催眠法◎ルイスの催眠法◎ヴォイレンの催眠法◎プラムツエルの催眠法◎ベルケルの催眠法◎ラセムの催眠法◎レンターシムの催眠法◎フロワーの催眠法◎ゲスマムの催眠法◎リシアーの催眠法◎ハンゼンの催眠法◎熊代先生の催眠法◎福來博士の催眠法◎結論

正二位 伯爵 東久世通禧閣下書
米國理學博士 高波武右衛門先生序

學理應用 家庭禁厭術

文學士北村忍堂先生閲
古屋 鐵石編著

（寫眞版木版挿入）
（菊大版百有餘頁）

▲效力の有無を實驗あれ▼

定價郵稅共
金四拾四錢

目次

一 禁厭術の意義
二 禁厭術の眼目
三 禁厭術の方式
四 禁厭術の原理
五 禁厭術の注意
六 禁厭術の士人
七 禁厭術の禁忌
八 在來禁厭術上の注意

◎頭痛を治する禁厭
◎頭腦痛を治する禁厭
◎神經質なる人を治する禁厭
◎昆虫過敏を治する禁厭
◎狂犬に噛まれたるを治する禁厭
◎病人を治する禁厭
◎不眠を治する禁厭
◎牛馬に噛まれたるを治する禁厭
◎瘧疾を治する禁厭
◎瘧鬼を治する禁厭
◎食傷を治する禁厭

◎胃病を治する禁厭
◎腹病を治する禁厭
◎便秘を治する禁厭
◎心臟病を治する禁厭
◎肺病を治する禁厭
◎喘息を治する禁厭
◎梅毒を治する禁厭
◎痲疹を治する禁厭
◎黄疸を治する禁厭
◎口齒を治する禁厭
◎流行眼を治する禁厭
◎夜盲を治する禁厭
◎小兒の經水を治する禁厭
◎小兒の百日咳を治する禁厭
◎小兒の蟲を治する禁厭
◎女の經水を治する禁厭

◎月經を大くする禁厭
◎月經を細くする禁厭
◎子宮病を治する禁厭
◎陰委を治する禁厭
◎早瀉を治する禁厭
◎小便の通じ惡しきを治する禁厭
◎小便の久くこらへ得る禁厭
◎陰門の腫れたるを治する禁厭
◎兒童の陰茎腫れたるを治する禁厭
◎出産の際えなおりぬ時おろす禁厭
◎耳鳴を止める禁厭
◎耳の遠きを治する禁厭
◎耳だれを止める禁厭
◎鼻血を止める禁厭
◎鼻つまりを治する禁厭
◎喉かわりを止める禁厭
◎たむしを治する禁厭
◎疣を取る禁厭

◎魚の目を取る禁厭
◎腫物を治する禁厭
◎腫痛をなめらかにする禁厭
◎牧の跡を明ける禁厭
◎霜焼をなくする禁厭
◎あかぎれを止める禁厭
◎乳の出でざるを治する禁厭
◎暑氣に當たらざるを治する禁厭
◎風邪に引かぬ禁厭
◎流行病に感染せぬ禁厭
◎おこりを治する禁厭
◎吐血を治する禁厭
◎負傷を治する禁厭
◎火傷を治する禁厭
◎切疵を治する禁厭
◎出血を止める禁厭
◎鼻血を止める禁厭
◎痔の出血を止める禁厭
◎足に豆の出來たるを治する禁厭
◎手又は面に吸ひし跡の血止まらざる禁厭
◎船車にて酔ぬる禁厭

◎便所の臭ひを除く禁厭
◎飯の汚れを防ぐ禁厭
◎酒の味をよくする禁厭
◎醋の味をよくする禁厭
◎菜の味をよくする禁厭
◎乾鮭を樂に切る禁厭
◎油を久しく貯ふる禁厭
◎蜜柑を水に凍らす禁厭
◎蟻の生ぜぬ禁厭
◎蟻を除かぬ禁厭
◎蛇の防ぎの禁厭
◎蛇の喰ひ附かざる禁厭
◎蛇に出入りする禁厭
◎蛇に噛まれたるを治する禁厭
◎蟻に噛まれたるを治する禁厭
◎蟻に刺されたるを治する禁厭
◎蟻の出でざるを治する禁厭
◎羽蟻を去らしむる禁厭
◎油を防ぐ禁厭
◎煙草の害を去る禁厭
◎畑へ入る蟲を生ぜぬ禁厭
◎火鼠の附かぬ禁厭
◎燈蛾に附かぬ禁厭
◎百足に刺されたるを治する禁厭
◎蚕の虱を去る禁厭
◎蚕の耳に入りたるを出す禁厭
◎田の畑に布かるを去る禁厭
◎畑の鳥を寄せぬ禁厭
◎衣服又は木の實に鳥を寄せぬ禁厭
◎犬に噛まれたるを治する禁厭
◎吠ぬを止むる禁厭
◎馬の繋がずして逃げざる禁厭
◎馬の病を治する禁厭
◎馬の氣を引きずして災を止むる禁厭
◎紙の血に附きたるを落す禁厭
◎品物に魚鳥の油附きたるを落す禁厭
◎釜鳴を止む禁厭
◎井戸の水惡しきを清める禁厭
◎戸の底を明にする禁厭
◎鍋釜物の糊なくて張りはげざる禁厭
◎のの流れざる禁厭
◎竹の節はれざる禁厭
◎燭の燒きてはれざる禁厭
◎螺の燒きて脫く禁厭
◎生卵を貯ふる禁厭
◎火の色を久しく貯ふる禁厭

◎貧乏人富貴になる禁厭
◎百日の中に我思ふ事の叶ふ禁厭
◎一生涯美衣美食にて居らるゝ禁厭
◎惡夢吉事を來らしむる禁厭
◎大吉事を夢にして轉ずる禁厭
◎嫁ぎ戸口を閉ぢて愉快に而白く暮なる禁厭
◎上中下の人と喧嘩する禁厭
◎無學者が大學者なる禁厭
◎訴訟に勝利を得る禁厭
◎文武官の出世美衣にて居らるゝ禁厭
◎長居人の人を自分の室へ來らしむる禁厭
◎思ふ人のとなつてしてなる禁厭
◎禁厭の早く名を揚げ快樂する禁厭
◎迷ひ子の呼びたる留めるる禁厭
◎逃亡人の捕へ留めるる禁厭
◎逃亡に利得る禁厭
◎夜道を付け狙ふ禁厭
◎夜道を見て渡る禁厭
◎方位に災難を除く禁厭
◎海川に近き類禁厭
◎雷火除け禁厭
◎近火除け禁厭
◎水難除け禁厭
◎火難除け禁厭
◎盜難除け禁厭
◎色欲除け禁厭
◎一生の品禁厭
◎日數の禁厭
◎無事の禁厭
◎死靈と崇る禁厭
◎蟲除け禁厭
◎蟲除く禁厭
◎蜘蛛に刺されたるを治する禁厭
◎蜂に刺されたるを治する禁厭

◎蟲にさゝれたるを治する禁厭
◎蛇に噛まれたるを治する禁厭
◎犬に噛まれたるを治する禁厭
◎蛇に出入りする禁厭
◎蛇の肛門に入り或は陰門等へ入り
◎蛇を出す禁厭
◎蛇が人の肛門に入り
◎蟻の除けぬる禁厭
◎蟻の出でざる禁厭
◎蟻を去らしむる禁厭
◎疱瘡を忘れざる禁厭
◎痲疹を免るる禁厭
◎痘瘡を避くる禁厭
◎苦痛を去らしむる禁厭
◎辛苦を忘れざる禁厭
◎物忘れを治する禁厭
◎潔癖を治せぬる禁厭
◎髮の縮れたるを治する禁厭
◎口中の魚骨を消す禁厭
◎喉に餅つまりたるを取る禁厭
◎眼中に塵入りたるを取る禁厭
◎耳に蟲入りたるを取る禁厭
◎夜に思ふ事の叶ふ禁厭
◎優等生に入る禁厭
◎女子の校に入る禁厭
◎男子の卒業する禁厭
◎亭主の現はする禁厭
◎女の嫉妬を止める禁厭
◎思ふ人の妬を止める禁厭
◎思ふ男女の深き禁厭
◎絲の縁を去る禁厭
◎絲の縁にあるる禁厭
◎遠き者に禁厭
◎男女和合して人に敬愛せらる禁厭
◎家内安全にして禁厭
◎名譽萬世に輝く禁厭
◎商賣繁昌する禁厭
◎不幸不運の人を開運せしむる禁厭

▲迷信に非ず心理學哲學の應用也▼

◎禁厭の理論
◎十二結
◎九新案禁厭術の原理方式
◎十新案禁厭術の原理方式
◎胸力を大きくする禁厭
◎陰鬱者を落とす禁厭
◎神經衰弱を治する禁厭
◎吃音を治する禁厭
◎嗜上を止める禁厭
◎齒痛を治する禁厭
◎腦病を治する禁厭
◎私的迫觀念を治する禁厭
◎獸的里を治する禁厭
◎記憶力を減ずる禁厭
◎神經病を治する禁厭
◎脚氣を治する禁厭
◎脚麻痺を治する禁厭
◎不眠を治する禁厭
◎小便を治する禁厭
◎草木を嫌ふなる禁厭
◎金物を治する禁厭
◎井戸の水を清める禁厭
◎火の色を久しく貯ふる禁厭

博士學士大家論集（寫眞版木版摺挿入）（萬民必讀の大珍籍）
（菊大版壹百拾貳頁）

不思議の研究

定價郵稅共金四拾四錢

日次

◎不思議の現象……理學博士 横山又次郎
◎夢中遊行症に就て……醫學博士 榊保三郎
◎孤立せる精神能力……文學博士 福來友吉
◎意の德に人間を造る法……農學博士 外山龜太郎
◎心靈的現象……外國語學校教授 平井金三
◎不可思議……文學博士 福來友吉
◎精神病は傳染す……醫學博士 吳秀三
◎生兒の男女を豫め判定する法……醫學博士 ロンム
◎病は氣からと云ふ言葉の實證……醫學博士 木村德衛
◎幽靈談……文學博士 井上圓了
◎夢中遊行症談……福岡醫科大學精神病學教室 氏原佐藏
◎妖怪……ドクトル 赤羽武次郎
◎物質を支配する精神の力……獨逸工學博士 ブフォルテン
◎遺傳の最新研究……理學博士 石川千代松
◎腦病神經病精神病異同の辯……醫學士 田村化三郎
◎讀心術……理學博士 横山又次郎
◎惡癖の改良……文學士 芝田徹心
◎色情教育……ドクトル 富士川游
◎美人の資格……醫學博士 三宅秀
◎文明と神經衰弱……醫學博士 今村新吉
◎人の死と鴉鳴……文學博士 井上圓了
◎冷水摩擦法……醫學博士 遠山椿吉
◎吾が身の缺點を矯正したる予の實驗……法學博士 新渡戸稻造
◎精神と疾病との關係……醫學博士 山極勝三郎
◎絞殺されたる時の心地……神學博士 パスツール
◎心靈的現象研究……文學博士 姉崎正治
◎身體鍛錬術……醫學博士 高木兼寛
◎幽靈生活の狀態……倫敦大學教授理學士 デ、アルベ
◎迷信……理學博士 坪井正五郎
◎幽靈は確にある……文學博士 ダルベ
◎潛在意識に就て……慶應義塾大學講師 川合貞一
◎假死と睡眠……醫學博士 松岡道治
◎人生二百年……醫學博士 松下禎二
◎精神的養生法と肉體的養生法……醫學博士 二本鎌三
◎陶宮術（運命轉換法）……吉永良廷
◎西洋夢判斷……佐藤肇光
◎意識の統一……佐伯政之助
◎神道の奇跡と神潔……文學士 補永茂助
◎精神的治療法……足立栗園
◎鬼神論……文學博士 高瀨武次郎
◎酒客治療所……醫學博士 片山國嘉
◎人格修養……文學博士 元良勇次郎
◎睡眠の必要……高山憲定
◎誰にも出來る人相鑑定……ドクトル 兒玉修治
◎胃腸鍛錬法……醫學博士 長與稱吉

言ふに云はれぬ面白味あるプランセット

妙具

プランセット

（一名米國の狐狗狸）

……定價金五拾錢、郵送料內地金拾貳錢
……臺灣、清國金參拾錢

（原理と使用法を詳述せる「プランセット術」書は別に壹册につき四拾錢申受候）

本具は一種の玩具に過ぎざるも、催眠心理學上の實驗具、家庭娛樂の滑稽具として米國の家庭にては大概一個を具ふると云ふ、依て本會にては米國紐育府セルチヨー及びライター會社より原物を取り寄せ、原物に違はぬ樣模造し同好の士に分ちたるに、面白き結果を得たりとの報告續々あり、本會實驗用として製造せしもの餘分あり、何人にも直に使用し得らるる樣記したる使用法書をプの下面に貼付し置きて希望者に分讓す。

山崎博士序　古屋鐵石著

獨習自在

自己催眠

目次　價郵稅共四拾四錢

「一」自己催眠とは何ぞや「二」自己催眠法の原理「三」自己催眠の準備「四」自己催眠を行ふ法「五」自己催眠を解く法「六」自己催眠の效果
「ろ」自己催眠にて病癖を治する理由「イ」總論「ロ」神經衰弱治療法「ハ」神經病治療法「ニ」腦病治療法「ホ」不眠症治療法「ヘ」吃音矯正法「ト」寢小便矯正法「チ」船車暈癖矯正法「リ」眼病治療法「ヌ」胃病治療法「ル」泌尿生殖器病治療法「は」自己催眠によりて不思議の現象を起す法「イ」肉體は一室に居乍ら精神のみ轉地療養をなす法「ロ」口寄せ及び乘氣の法「ハ」居ながら遠方の狀況を知る法「ニ」神佛を現はす法「ホ」幽靈又は怪物を現はす法

千里眼の製法及び心身の健康法としては自己催眠に優る者なからむ

通學教授科目（學科部）目次

精神哲學目次

▲序論◉哲學の概念及其問題◉哲學の心理的起源◉哲學の歴史的起源◉哲學と宗教との關係◉哲學と科學との關係◉哲學の分類▲本論◉知識論◉經驗のまゝを窮極となすの論◉人智は實體に到達し得べきか（イ）ヒユウムの知識論（ロ）カントの知識論◉主觀論と客觀論（イ）主觀的觀念論（ロ）物心の關係◉唯心論（イ）唯物論（ロ）物心兩元論◉本質論◉窮極的統一論（イ）自然界と精神界との窮極的統一（ロ）物心の統一（ハ）窮極的本體論（ニ）汎神論派◉平等差別論（イ）平等と差別（ロ）現象と本體との關係（ハ）物と其の現象との一切の關係◉宇宙の活動、（以上十二行罫紙四十五枚に記しあり）

變態心理學目次

▲前編◉心理學の定義◉意識とは何ぞや◉意識と生理◉意識の分類◉意識の顯在活動と潛在活動◉精神の機關◉聯合◉本能◉習慣◉感覺と知識◉感情◉意志▲後編◉暗示◉暗示と聯合活動◉暗示感性◉暗示の效力法則◉暗示術◉催眠狀態◉催眠と睡眠との異同◉催眠術◉催眠と錯覺及幻覺

（以上十二行罫紙八十枚に記しあり）

高等催眠學目次

◉催眠狀態◉催眠狀態の階級◉被術者の心得◉催眠法の原則◉催眠の形式◉解眠法◉催眠術にて惡癖を矯め疾病を治し得る理由◉暗示法の要點◉檢診法（以上十二行罫紙三十枚）

高等催眠學原理圖解目次

◉潜在的精神と現在的精神との活動圖解◉暗示と聯想活動の圖解◉善感情と惡感情と精神との關係圖解◉記憶再現と雜念との關係圖解◉注意力の强弱圖解◉覺醒時の精神と催眠術の精神との比較圖解◉催眠法の原理圖解◉正覺の圖解◉錯覺の圖解（五枚）

高等催眠學原論目次

◉聯合作用と催眠との關係◉催眠の原因◉催眠狀態と睡眠狀態との類似點◉睡眠腦と催眠腦との區別の異點◉純粹なる催眠と不純粹なる催眠◉催眠の生理的狀態◉催眠の生理的條件◉催眠に對する實驗的斷定◉自然の催眠と人工催眠◉催眠術の準備條項◉催眠感受性の割合◉催眠感性の高低◉催眠感性の高き者と低き者を試むる催眠の手段◉催眠の手段と催眠狀態との關係◉器械催眠◉催眠の誘導◉喚

催眠解剖學目次

◉心理學的方法による催眠法◉純粹なる催眠狀態を得る方法◉局部的刺戟による催眠法◉催眠の心理的方法◉催眠術者の技倆及人格◉催眠の距離◉完全なる催眠狀態◉催眠狀態の方法◉階級の暗示◉暗示の作用◉暗示の深淺◉暗示を強むる條件◉音樂の暗示力◉催眠の暗示◉否◉意識的暗示◉溯行的暗示◉自己暗示◉官能の變換◉隨意筋と自己暗示◉催眠中に於ける反意的行動◉催眠の輕重◉催眠と感情と◉記憶及隨意筋との關係◉知覺の◉催眠と喚想◉催眠と幻覺及び錯覺◉夢の生因◉催眠中の夢と◉催眠と夢の異同◉自己催眠の沿革◉催眠に◉通常の害を除く條件◉如何にするも覺醒せざる催眠狀態（百十七枚）

催眠生理學目次

▲緒論◉物質力説◉生物及無生物◉人體各部の名稱▲生物身體の構造及生理◉骨の解剖◉筋の運動器解剖◉呼吸器の解剖◉血行器の解剖◉消化器の解剖▲諸內臟の解剖及生理◉泌尿器の解剖◉神經系統の生理▲神經系統の解剖◉生殖器の解剖▲五官器の解剖及生理◉五官器◉皮膚（一）鼻（二）舌（三）眼（四）耳（五）（百二十二枚）

病理學目次

◉生理學の定義◉血液の成分◉血液循環◉呼吸の生理◉排泄作用◉消化及び營養の作用◉生理の作用◉主なる中樞の所在◉記憶力と精神及び睡眠◉神經の生理◉催眠術科機能の經過◉催眠狀態◉五官器の生理的觀察◉催眠術の生理◉夢とは何ぞや◉神經の作用（四十五枚）

▲緒論◉病理學とは何ぞや◉病理に關する概念▲疾病の原因◉內因●先天的素因（一）遺傳●後天的素因●通性素因（一）人類（二）男女（三）年齡（四）體質◉外因●器械的原因●溫熱的原因●科學的原因●寄生體原因（一）動物的寄生體（二）植物的寄生體（イ）分裂菌（ロ）系狀菌（ハ）芽胞菌（三）生活狀態的原因（イ）飲食物（ロ）空氣（ハ）住居（ニ）氣候（ホ）職業（ヘ）貧富等▲疾病に由て起る變化◉局所血液循環障害●貧血●充血●鬱血●血栓及塞栓（一）轉移（二）出血（三）水腫●退行性病變（一）壞疽（二）萎縮（變性）（イ）脂肪變性（ロ）ゲリーゲン變性（ハ）澱粉樣變性（ニ）硝子樣變性（ホ）粘液變性（ヘ）膠質變性（ト）石灰變性（チ）結石に就て●進行性病變（一）再生（二）肥大（三）腫瘍（イ）纖維腫（ロ）脂肪腫（ハ）軟骨腫（ニ）骨腫（ホ）血管腫（ヘ）肉腫（ト）乳嘴腫（チ）腺腫（リ）癌腫（ヌ）惡性淋巴腫（ル）稜腫▲炎症論▲傳染病に關する通說▲新陳代謝異常、溫政病、▲畸形等に就て（六十九枚）

催眠檢診學目次

▲緒論◉察病要項（一）體位（二）體格（三）營養（四）脈（五）體溫（六）呼吸（七）身體各部の狀態（八）食事（九）尿（十）咳嗽と痰▲本論◉呼吸器の病（一）鼻加答兒（二）鼻茸（三）衄血（四）鼻の穴の注意（五）喉頭加答兒（六）氣管支加答兒（七）毛細氣管支炎（八）喘息（九）喀血（十）肺氣腫（十一）肺炎（十二）肺結核（十三）肋膜炎（十四）呼吸器の攝生養生◉消化器の病（一）口腔加答兒（二）扁桃腺炎附喉頭炎（三）齒の病（四）食道の病（五）胃加答兒（甲）急性胃加答兒（乙）慢性胃加答兒（六）吐血（七）胃潰瘍（八）胃癌（九）胃擴張（十）胃神經痛（十一）胃酸過多症及酸減少症（十二）胃神經疾病（十三）胃物療ト（十四）急性腸加答兒（十五）慢性腸加答兒（十六）盲腸炎（十七）腸癌腫（十八）腸箝頓（十九）痔疾（二十）腸出血（二十一）腸神經痛（二十二）蛔蟲（二十三）蟯蟲（二十四）鞭蟲（二十五）十二指腸蟲（二十六）膽石病（二十七）黄疸（二十八）肝臟充血（二十九）肝臟炎（三十）肝臟癌腫（三十一）肝臟包虫腫（三十二）膵臟の病（三十三）腹膜炎（甲）急性腹膜炎（乙）慢性腹膜炎（三十四）腹水◉腦脊髓及神經の病（一）腦貧血（二）腦充血（三）腦膜炎（四）腦溢血（五）癲癇（六）舞踏病（七）歇私的里（八）神經衰弱症（九）依卜昆垤里（十）狐憑病（十一）脊髓勞（十二）顏面神經麻痺（十三）三叉神經痛（十四）肋間神經痛（十五）坐骨神經痛◉循環器の病（一）心臟病◉泌尿器の病（一）腎臟炎（二）尿毒症（三）腎臟病（四）膀胱加答兒（五）膀胱結石（六）遺尿症◉新陳代謝の疾病（一）糖尿病（二）痛風（三）僂麻質私（四）脚氣（五）癩病◉男子生殖器病（一）陰萎症（二）男子不妊症（三）遺精症（四）攝護腺炎（五）睾丸陰囊水腫、精系炎◉婦人病（一）膣洗滌法（二）月經異常（三）陰門炎（四）會陰破裂（五）膣炎（六）子宮の轉位（七）子宮內膜炎（八）子宮癌腫（九）卵巢囊腫◉產科（一）妊娠時の注意（二）產婦の消毒（三）產婦の容態（四）產褥の攝生（五）惡症（六）流產（七）產褥熱（八）乳腺（百七十一枚）

精神病學目次

▲緒論▲本論◉精神病の原因●外的原因●內的原因◉精神病の諸徵◉豫防法◉精神病と治療術◉瘋癲狂◉偏執狂◉妄想狂◉癲狂◉緊張狂◉單純性痴狂及破瓜狂◉躁狂◉鬱狂◉癲癇狂◉ヒステリー狂◉疲勞性精神病◉老耄狂◉變質狂◉先天性精神薄弱◉アルコホル中毒◉精神病と看護（七十三枚）

神經病學目次

▲末梢神經疾患◉運動神經及混合神經疾患◉末梢性麻痺幷に萎弱◉眼筋神經麻痺●外旋神經麻痺●動眼神經麻痺●滑車神經麻痺◉三叉神經運動麻痺◉顏面神經麻痺◉喉頭麻痺◉舌下神經麻痺◉副神經麻痺◉肩胛神經麻痺◉橫隔膜神經麻痺◉上膊神經麻痺◉長胸神經麻痺◉尺骨神經麻痺◉腋窩神經麻痺◉撓骨神經麻痺◉正中神經麻痺◉エルブ氏麻痺◉クルンプケ氏麻痺●閉鎖神經麻痺◉筋皮神經麻痺◉脚神經の麻痺●脫神經麻痺◉二三の神經筋痙攣◉領域に起る痙攣●牙關緊急（或は咀嚼筋痙攣）◉顏面痙攣◉副神經痙攣◉點頭痙攣◉吃逆即ち橫隔膜痙攣◉跳躍痙攣◉職業痙攣▲感覺神經疾患◉感覺脫失、感覺鈍麻、感覺過敏、異常感覺◉神經痛◉後頭神經痛◉腰神經叢及び頸神經叢神經痛◉肋間神經痛◉尾閭神經痛◉神經節◉多發性神經炎◉運動失調性◉鉛中毒◉阿片◉實扶的里◉間歇性跛行症◉附載◉脚氣◉神經の新生物●脊髓膜炎◉急性脊髓炎◉脊髓壓迫麻痺◉脊椎骨瘍◉上頸椎骨瘍◉胸下椎骨瘍◉脊髓癆（一）期（二）期神經痛期（三）期運動失調期（麻痺期）◉フリードライヒ氏病（遺傳性運動失調症）◉進行性脊髓筋萎縮◉附錄一、假性筋肥大性筋萎縮◉小年性（遺傳性）筋萎縮◉附錄二、進行性神經性筋萎縮◉脊髓空洞症◉肢端疾患◉脈管運動性營養性官能的神經病（百七十枚）

生殖器病催眠治療奧義目次

◉緒言◉自然的遺精◉想像妊娠◉過妊◉早漏◉夢精◉遺尿◉包莖◉陰萎◉流產◉早產◉蓄妾◉避妊◉白帶下◉月經異常◉膣加答兒◉色情狂◉淫縱◉勃起不能◉淋病◉梅毒◉意識性神經衰弱◉生殖器性腦弱◉消渴◉陰莖◉男女美減退◉色情の增減◉自由結婚◉懷姙◉胎兒の性◉美子◉無痛分娩◉結論（七十九枚）

總紙數一千百四十一枚

催眠術獨習書目錄

（書名の傍に●を附ぜるは最も良書なるを示す）

古屋鐵石著 寫眞版挿入菊大版壹百貳拾六頁 ◎催眠宗教論 價郵税共四拾四錢

博士學士五十有餘名論集 菊大版壹百拾貳頁 ◎不思議の研究 價郵税共四拾四錢

パーキンス博士發明模造（金屬製品） ◎催眠治療具 價郵税共八拾貳錢

高橋五郎先生著 ◎神祕哲學 價郵税共五拾六錢

文學士花澤浮洲先生著（催眠術講義錄の一部） ◎催眠術新論 價郵税共拾六錢

明法學士兩宮良作先生著 ◎文章論說取締法規詳解 價郵税共參拾錢

木版色刷三枚壹組 寫眞版三枚壹組 ◎催眠術繪葉書 各價郵税共拾貳錢

古屋節筆（額面用石版畫） ◎催眠術實驗圖 價郵税共七錢

精神研究會長 古屋鐵石著述 ◎腦及神經健全法と記憶力增進術 價郵税共四拾四錢

醫學士 志賀光雄先生著 ◎西洋獨按摩術 價郵税共拾錢

博士書院主 古屋鐵石著 ◎催眠術治療法 價郵税共四拾四錢

古屋鐵石著 ◎坐禪獨習法 價郵税共四拾四錢

古屋鐵石著 ◎獨習自在自己催眠 價郵税共四拾四錢

年四回 春夏秋冬發行（精神研究會機關雜誌） ◎精神治療新報 價郵税共拾貳錢

古屋鐵石著 ◎獨習自在坐禪之奧義 價郵税共貳拾貳錢

大日本記憶學會著 ◎新案記憶力增進法講義 價郵税共六拾錢

醫學士 志賀光雄著 ◎催眠診斷學 價郵税共參拾錢

古屋鐵石著（雜誌增刊） ◎催眠法律論 第壹編 價郵税共拾貳錢

雨宮、古屋兩學士著（雜誌增刊） ◎煩悶消失快樂增進法 價郵税共拾四錢

雜誌增刊 ◎健腦術 價郵税共七錢

古屋鐵石考案（金屬製品） ◎催眠凝視球 價郵税共六拾錢

大野美惠丸著 井上圓了博士序 ◎催眠學術新論薰習講話 價郵税共九拾錢

米國製模造（臺灣清國は送料參拾錢） ◎プランセット 定價五拾錢 送料拾貳錢

雨宮學士著（雜誌增刊） ◎男女無錢東京遊學之祕訣 價郵税共拾貳錢

雜誌增刊 ◎愛妻 價郵税共拾貳錢

弄口松之助著 ◎柔術劍棒圖解祕訣 價郵税共參拾四錢

南大醫跋 古屋鐵石著 ◎驚天動地反抗者催眠論 價郵税共四拾四錢

土方伯爵題 磯部博士序 古屋鐵石著 ◎宗教奇蹟研究 價郵税共四拾四錢

岩谷大人序 古屋鐵石著 ◎男女運命豫知術 價郵税共四拾四錢

內務大臣御屆濟（催眠術家必携） ◎催眠精神治療劵綴 價郵税共四拾四錢

伊藤博文公題 井上圓了博士序 古屋鐵石著 ◎驚神的大魔術 價郵税共六拾四錢

文學士上野柳眠先生著 ◎催眠心理學 價郵税共四拾四錢

東久世伯爵題 高波博士序 古屋鐵石著 ◎催眠術獨稽古 價郵税共四拾四錢

自第七拾號至第七拾七號八冊合卷クロース製 ◎精神治療新報合冊 定價郵税共壹圓參拾貳錢

拾冊合卷總クロース金文字入 ◎催眠術雜誌合冊 定價小包料共壹圓六拾貳錢

東久世伯爵題 高波博士序 古屋鐵石述

催眠術獨稽古

附 動物催眠法

寫眞版木版挿入 菊版壹百拾六頁 定價郵税共金四拾四錢

本書は多年間催眠術の通信教授をなし會員をして研究すれば自在に催眠術を究むることを得む、眞に此書は破天荒の良書也。

成功せしめたる實驗に基き、催眠の奧義を獨りにて稽古せらるゝ樣最も簡易に記述したるものなれば素人と雖も此書によりて催眠術家之れを一讀すれば從來の現象を呈せしむることを得、の實驗上意の儘にならざりしは何故なるかを明に悟りて奧義を

（本書は催眠術教科書に掲げしを更に一書としたる者也）

目次大要 ●催眠術は何人も學ばざる可らざる所以 ●催眠術の沿革▲催眠術の起原▲動物磁氣說▲神經病的說▲暗示說▲第二自我說 ●靈魂說 ●施術室の裝置 ●感受性の强弱鑑別法 ●催眠せしむる方法▲催眠法の原則▲心理的催眠法○一喝催眠法○言語催眠法○隔地催眠法▲生理的催眠法○凝視催眠法○音調催眠法○觸接催眠法○嗅覺催眠法○筋覺催眠法▲應用催眠法○瞳視催眠法○壓迫催眠法○大喝催眠法○開閉眼催眠法○暗室催眠法○睡眠者を催眠せしむる方法○强制催眠法 ●簡易催眠法 ●自分で自分を催眠せしむる方法 ●眠を醒す方法▲心理的覺醒法▲覺醒注意法▲催眠術實驗の標準▲プレート派の實驗例▲メスメル派の實驗例▲ナンシー派の實驗例▲著者の實驗例 ●意思の聯合（ラポール） ●催眠狀態の性質 ●催眠狀態と感受性▲睡眠と催眠の別 ●催眠狀態の階級▲暗示の感應と催眠の深淺との關係▲淺睡狀態▲不隨狀態▲强直狀態 ●暗示とは何ぞや ●精神と肉體との關係 ●暗示の方式▲心理的暗示 ●生理的暗示 ●暗示を與ふる順序 ●殘續暗示 ●催眠と記憶の關係 ●幻想とは何ぞや ●幻想の意義▲外部感覺の幻想▲內部感覺の幻想 ●模擬の作用 ●觀念運動 ●不隨意運動の變化 ●身體組織の變化 ●分泌作用の變化 ●感覺の銳鈍 ●人格の變換 ●思想の移轉 ●天眼通 ●神通力或は千里眼 ●火箸を曲げる術 ●棒寄せの術 ●暗示に感應する理由 ●萬人が萬人悉く催眠せしめ得る方法

附錄 動物催眠法

目次大要 ●鷄、蛙、蛇、蜥蜴、魚類、犬、猫、馬、河鰕、烏賊、天竺鼠、蟻を催眠せしむる方法▲心理學上及び生理學上動物催眠の原理

附其他雜錄數十件

正二位伯爵土方久元閣下題　辯護士名合孟先生序
法學博士　磯部四郎閣下序　古屋鐵石著　（菊大版壹百拾八頁　寫眞版挿入）

宗教奇蹟研究

定價郵稅共
金四拾四錢

奇蹟現象と眠現催眠象は一致せるを以て論ぜり。

讀賣新聞

曰く耶蘇釋迦乃至佛教十一宗神道十五派の奇蹟を研究して其事實にして實驗し得べきものなるを說けり。

國民新聞

曰く古今宗教史に見えたる宗教上の奇蹟を佛、耶、神三道に渡り實例に徵して一々其理由を說破せんと試みたり云々。

目次

一、總論……
一、奇蹟とは何ぞや……
二、催眠術と奇蹟との關係……
三、宗教と奇蹟との關係……
二、基督教の奇蹟……
一、新舊二聖書中の奇蹟概觀……
二、耶蘇の行ひたる奇蹟……
一、葡萄酒變じて血となりパン變じて肉となる……
二、冷水變じて葡萄酒と化す……
三、海上を歩行し波濤を靜止す……
四、心力にて木を枯らす……
五、死人を蘇生せしむ……
六、惡鬼を追拂ふ……
七、雲中より神聲を發せしむ……
八、魚口に金を生ぜしむ……
九、藥を用ひず重病を治す……
三、佛教の奇蹟……
一、佛教經典の奇蹟概觀……
二、釋迦の行ひたる奇蹟……
一、寃女を消滅せしむ……
二、提婆を不動金縛となす……
三、極樂世界を眼前に現はす……
四、六神通力を行ふ……
三、佛教各宗の奇蹟……
一、木像首を動かす（臨濟宗）……
二、刀刃段々に壞はる（日蓮宗）……
三、鰯の頭靈驗を顯はす（眞言宗）……
四、空間に彌陀佛の像を現はす（眞宗）……
五、飛行自在の通力を示す（修驗道）……
六、奇々妙々の事を行ふ（天台宗）……
七、密呪にて蛙聲を止む（淨土宗）……
八、毘沙門天の木像動く（時宗）……
九、幽靈の出沒（禪洞宗）……
十、引道を行ふ（黃檗宗）……
十一、坐禪を行ふ（禪宗）……
四、神道の奇蹟……
一、神道の奇蹟概觀……
二、神道各派の奇蹟……
一、探湯式を行ふ（御嶽教）……
二、交靈術を行へり（天理教）……
三、重病者を即治せり（黑住教）……
四、忽ち雜念を去らしむ（禊教）……
五、蓋目の法を行ふ（大社教）……
六、思ふ事を叶はしむ（金光社）……
七、一生涯安心を與ふ（修成派）……
八、守札の靈驗著し（神習教）……
九、禍を未發に防ぐ（神理教）……
十、劍渡を行ふ（大成教）……
十一、火渡を行ふ（神道教）……
十二、幽明界を明にす（扶桑教）……
十三、家運長久家內安全ならしむ（實行教）……
十四、萬物一體の觀を現はす（丸山教）……
十五、疾病を治し幸福を得せしむ（蓮門教）……
五、結論……

◎通學會員への教科目

學術科目

一、精神哲學
二、變態心理學
三、高等催眠學
四、高等催眠原理圖解
五、高等催眠學原論
六、催眠解剖學
七、催眠生理學
八、病理學
九、催眠檢診學
十、精神病學
十一、神經病學
十二、生殖器病祕密療法

實習科目

一、イ、結印術　ロ、姿勢法　ハ、暗示力增進法　ニ、凝視法　ホ、催眠進法
二、イ、棒寄術　ロ、鐵棒曲術
三、イ、覺醒時錯覺術　ロ、視官錯覺法
四、イ、觸官錯覺法
五、イ、覺醒時無感覺術　ロ、强抓無感法　ハ、鐵針肉刺無感法
六、イ、氣合術　ロ、氣合の方法　ハ、覺醒者兩掌如意法　ニ、覺醒者步行停止法
七、イ、合氣術　ロ、肉體木葉輕法　ハ、拇指增力法　ニ、人指密接法　ホ、掌指不離法
自體重法
ヘ、病癖除去法
心力感通法
八、イ、三角倒敵法　ロ、棒支法　ハ、棒上法　ニ、棒受法　ホ、揑腕放離法
ヘ、他體重法
九、豫期作用增進術
十、催眠感性鑑別術　イ、外貌視察法　ロ、手指屈曲法　ハ、二指固握法　ニ、身體傾射法
十一、新案撫下術（バス）　イ、西洋傳來法　ロ、二刀法　ハ、段落法　ニ、電氣法　ホ、井形法　ヘ、螺旋法
十二、催眠深淺判定術　イ、藥指法　ロ、睫觸法　ハ、鼻穴法　ニ、手指法　ホ、脈搏法　ヘ、心靈法
十三、鳥獸催眠術
十四、新案催眠法
十五、催眠應用精神療法
十六、催眠用マッサージ法
十七、自己催眠術
十八、坐禪法
十九、電氣治療法
二十、武道竹折術
二十一、テーブルタルニング術
二十二、クリスタルゲージング術
二十三、プランセット術
二十四、心力物質及否試驗術

（實習科目は悉く必ず成功することを確證す、）

右學課目の外尙隨意科目として催眠哲學、催眠醫學、宗教學、教育學及び精神研究に關係せる諸學科を教授す。前揭の科目中黑點を附せるものは最も必要なる科目にして必ずよく暗誦するを要す、其他は其れに次で必要なり故に黑點を附せし科目は是非共よく咀嚼するを要す、學課の部の講義筆記は大凡十二行罫紙にて一千枚以上を以て完結す、故に學課のみとするも教授料八圓に對し十二行罫紙一枚に對する講義料僅に八厘弱にしか當らず、實習のみとするも教授料八圓に對し一課目僅に卅三錢にしか當らず、如斯比較的安價なる教授料他にありや。

明治四十四年二月

精神研究會教授部

古屋鐵石著（大好評四版發行）

腦及神經健全法と 記憶力增進術

一名 記憶培養法

價郵税共 四拾四錢

▲記憶力の缺乏を嘆ぜる者は是非讀め

▲腦と神經との不健を感ぜし者は是非讀め

▲身心を强健にする修養法を知らんとする者は是非讀め

▲記憶力をして絶體無限に發展せしめんとする者は是非讀め（此書は外國語に譯されて盛に海外に輸出せり以て此書の眞價如何を知れ）

◉立身出世の秘訣は記憶の培養如何にあり

催眠術界の大發明

實用新案特許第一九七〇九號

淺式催眠球

定價郵税共 金八拾四錢

誰でも此球を使用すれば吃度人を催眠せしむるを得、且淺眠を深眠とすることを得る方法書を添へり

注意 實用新案法第四拾六條に「實用新案の登録を受けたる物品を僞造模造し又は僞造品模造器を販賣擴布若は使用したる者は十五日以上一年以下の重禁錮又は十圓以上二百圓以下の罰金に處す」と規定しあり

是非此球を使用せよ

伊藤博文公書入

文學博士　井上圓了先生序
文學士　堀内複人先生校閲
古屋鐵石編著

驚神的大魔術

菊大版壹百五拾八頁　價郵税共金六拾四錢

歐米諸大家書入

●緒言　魔術とは何ぞや●不可思議と不可知●魔術の定義●物質的魔術●精神的魔術●不思議の現象と催眠術との關係●木葉を紙幣に見せる術●過去現在未來のことを知らす具●其構造法と使用法●實驗例と學説●精神の顯在潛在とは何ぞ●人格變換とは何ぞ●ピネー氏と福來博士との實驗と説明●

●米國狐狗狸術（プランセット）　構造法と實驗例●井上博士の説明●

●日本狐狗狸術

●降神術（スピリチズム）　口寄術●乘氣術●中座術●隙言術●交靈術●神人交感術●交天術●易筮●天源術●九星術●陶宮術●占夢術●似非降神術の內幕●井上博士と今日醫士が行ひつゝある禁厭●鎮魂術●卓佛の靈顯ある理由●不思議なマジナヒ法●加持祈禱の區別●信仰療法●魔術應用心理療法●魔術應用精神療法●切支丹バテレン術●見佛術●神とは何ぞや●佛とは何ぞや●見神自在法●井上福來兩博士の説●

●禁厭術

●見神術

●幽靈對話術　靈魂の滅不滅●靈魂と幽靈との異同●生靈術●死靈術●人魂變現術●狐火術●人三化七出沒術●神佛の榮枯●鬼門●方位●相性●祟起●日柄●迷信の原理

●眞言祕密術　眞言祕密とは何ぞや●護身法と九字●眞言祕密と催眠術●

●精神感傳術（テレパシー）　無線電信的精神の感應●遠感術●思想交通術●著者が伯爵邸にてなせし實驗●

●天眼通術（クレボヤンヌ）　座ながら遠方の情況を知る法●縮地術●天耳通術●神通術●遠視術●未來豫知術●靈天動地の實驗●學理上の根據●

●火渡術　鎭火術●石油火中通過術●火渡の方法及び原理●歐米人を驚かしたる火渡の實驗●

●狐遣術　狐化術●狐憑術●飯綱遣術●管狐術●人狐術●犬神術●狸遣術●貉遣術●津輕伯爵を惱ませし老狐●科學的説明●讀心術必要の理由●察心術●讀想術●觀心術●實驗の方法●現象と理論●井上博士とピネー氏との説●

●讀心術

●骨相術　人相術●手相術●面相術●爪相術●祕密看破術●骨相的心理矯正●心性學の眞髓●市川高橋兩學士の説●

●忍術　身體隱現術●隱身術●隱形術●忍術療法●

●仙術　奇怪の現象●延年術●長命術●尺地術●吸氣術●天人術●天源養氣術●感通醫術●仙術療法●斷食療法●待機療法●

●幻術　劍を呑み火を掴む術●幻術療法●實驗と評論●

●氣合術　武士道の骨子●膽力鍛錬術●人心操縱術●

●棒寄術　靈棒術●寄棒術●開棒術●實驗例と學理●井上博士の説●

●火箸曲術　小指にて鐵棒を曲げる術●實驗と學理●

●武道竹折術　空竹折の光景●武道の極意●物理的心理的説明●

●女交際的魔術　交際と成功との關係●魔術的男女交際の極意●色魔術●

●地獄極樂漫遊術　何をか地獄極樂と云ふ●天國●地國●阿彌陀如來●眞如●無名●天●大極●法●性●天帝●心●精神とは何ぞ●結論●

（祕密圖七個插入）

日本東京
芝區
高等商業學校

特46
569

男女東京にて自活する法

国立国会図書館

041599-000-1

特46-569

男女東京にて自活する法

独立亭成功／著

M44

BDH-0066